

古墳時代の東北地方南部における生業について

植松暁彦

1 はじめに

古墳時代の東北地方南部は、前方後円墳や埴輪の北限で、古墳文化の北限域として知られる。

本県では、この時代の生業品として当時盛隆する①製鉄関連遺物、②玉類、③石製模造品が出土する。また、糸紡ぎ用の④紡錘車は、後代の古代出羽・陸奥の両国の「調」（特産品）として狭布生産に続く。

一方、本県（中山町物見台遺跡・寒河江市石田遺跡・鶴岡市山田遺跡）、太平洋側の東北地方南部の北側地域（大崎平野・仙台平野北部）では、西日本では出土例がない⑤黒曜石製石器が出土する。なお、同地域では⑥骨鏃も出土し、両者とも東北的遺物として注目される。

他に、他地域の系譜や影響が推定される⑦木製農具などが、河川跡から未成品も含め多量出土する場合がある。

これらは、近年本県でも発掘調査の増加と共に、資料数が増え、上記遺物も一定量確認できるようになった。

しかし、本県では未だこれらを製作した遺跡（生業遺跡）や遺構（生業建物）の事例数が少ない。一方、東日本で希少な山形市大之越古墳の①鉄（鍛冶）生業時の鍛冶具の副葬や、③多量の石製模造品の日本海側北限である尾花沢市八幡山遺跡の山頂祭祀があり、生業遺跡が少ない割に特異な生業に関わる遺跡があり注目される。

本稿では、本県の日本海側と、従来から複数の生業が知られる太平洋側の生業遺跡を集成する。また、各県での各々の生業遺跡や生業建物などを概観し、東北地方での生業のあり方の相違などを検討する。

2 研究史と土器編年

本県の古墳時代の生業研究は、出土事例の少なさもあって報告書で各々所見が述べられるに留まる。

東北地方では、生業全体を把握したものに、菊地芳朗氏の研究がある（菊地 2010）。菊地氏は、須恵器や埴輪も含めた東北地方の上記生業を概観し、特に鍛冶遺構の竪穴住居の規模や形態の差異により生業の様相を検討

された。また、柳澤和明氏、村田晃一氏は後期～終末期の宮城県山王遺跡の多様な生業を整理され、複数の生業遺跡の特徴を指摘した（柳澤 2010、村田 2018）。

東北地方に生業個別では以下のものがある。

①製鉄は、一般に鉱石系・砂鉄系鉄素材から製鉄炉（製錬）→鍛冶炉（精錬）[大鍛冶]→鍛造（鍛錬）[小鍛冶]・鑄造の工程がある。古墳時代の東北南部では製鉄炉の導入は古墳時代終末の7世紀後半からで（飯村 2005）、それ以前は鍛冶炉の精錬・鍛錬が普及する。先行研究では、村上恭通氏の通史的な研究があり、国内のみならず朝鮮半島・中国大陆も視野に入れたものがある（村上 2007）。近年では、前述した7世紀後半代の福島県浜通り地方の製鉄[製錬]遺跡群（武井遺跡群・金沢遺跡群）の調査が進められ、形態や系譜も検討されている（鈴木 1996、飯村 2005、能登谷 2006、吉田 2017）。

②玉類は、潮見浩氏が管玉の製作工程を「荒割→形割→調整（押圧剥離）→研磨→穿孔→仕上げ」を指摘する（潮見 1988）。他に全国的に大賀克彦氏の古墳副葬の玉類組成の編年研究も注目される（大賀 2002・2013）。

③石製模造品は、佐久間正明氏の先駆的研究があり、福島県出土例を基にした緻密な、関東地方などとの比較から形態や系譜の研究がある（佐久間 2015）。

④紡錘車では、高松俊雄氏が福島県清水内遺跡で出土する東日本では数少ない算盤型紡錘車について、関敦司氏が福島県内の紡錘車を集成し、県内でも阿武隈川中流域で集中して出土することを指摘した（高松 2002・関 2002）。

⑤黒曜石製石器は、高橋誠明氏が宮城県北部の大崎平野で多く出土する状況を検討され、東北北部との続縄文文化との関連、円形の黒曜石製石器を搔器（皮なめし具）とした（高橋 2014）。他に、藤沢敦氏は、東北北部を含む東北地方全体で、弥生時代末から古墳時代にかけての続縄文文化と古墳文化の境界など、遺跡を含め多様な面から時期毎の様相変化を検討する（藤沢 2018）。

⑥骨角器（骨鏃）では、宮城県を主に多様な骨角器が

製作されるが、特に出土例の多い骨鏃は、藤沢敦氏が集成され、東北地方～関東地方の太平洋側の遺跡や古墳、洞窟遺跡などから多く出土することを指摘する(藤沢 2002)。前述菊地氏も東北地方の骨鏃の様相などを言及する(菊地 2013)。横須賀倫達氏は骨鏃を東北地方の特異な副葬品として整理された(横須賀 2015)。

⑦木製品(農具)では、山形県山形盆地・宮城県仙台平野の前～中期の遺跡の河川跡から未成品を含む多量の木製品が出土する遺跡群がありその製作も窺える。荒井格氏、竹田純子氏は一部農具の系譜などを検討され、複数地域の影響を指摘する(荒井 1992、竹田 2000)。

最後に、本稿の編年観は、本県や隣県の先行研究に準じ援用する。古墳時代前期は、東北地方南部の土器型式である「塩釜式」(氏家 1957)の変遷を整理された次山淳氏、辻秀人氏、青山博樹氏、筆者の当該期土器研究(次山 1992、辻 1994・1995、青山 2005・2010、植松 2005・2014)の土器編年を援用する。

古墳時代中期・後期・終末期(飛鳥時代)は、東北地方南部で一般的で本県でも援用する太平洋側「南小泉Ⅱ式(南小泉Ⅱ式に後続する時期[引田式併行]含む)」・「住社式」・「栗園式」に各々概ね対応させる。本県でも先行研究(加藤 1990)があり、後の阿部明彦氏の物見台遺跡の検討による物見台Ⅰ群(塩釜式)、同Ⅱ群(南小泉Ⅱ式)、同Ⅲ・Ⅳ群(同Ⅱ群に後続しⅤ群に先行する未命名型式)、同Ⅴ・Ⅵ群(住社式)を援用する(阿部 1987)。また、後期～終末期は、筆者拙稿(植松 2008・2009)に準じる。

3 東北南部の生業遺跡の集成

本稿では、前項の東北地方南部の主な①鉄(鍛冶)、②玉類、③石製模造品、④紡錘車、⑤黒曜石製石器、⑥骨角器(骨鏃)、⑦木製品(農具)の生業遺跡を図1に表す(以下、①～⑦は名称を原則省略し数字のみで表す)。

これらは、各々生業の製作時の遺構(製鉄関連の製鉄炉・鍛冶炉)、使用具(製鉄関連の羽口・金床石・坩堝)、製作残滓(製鉄関連の鉄滓・鍛造剥片、玉類・石製模造品・黒曜石製石器の剥片・原石)、未成品(玉類・石製模造品の未穿孔品など)の遺跡での有無によって筆者が生業遺跡を判断した。なお、⑦は河川跡出土が多く、明確な生産を示す遺構は判然とせず、前述した木製品の過

多や未成品の有無、報文から生業遺跡を判断した。

他に、各生業の素材と生業遺跡との関係から、一般に産地が知られた素材供給地(③・⑤)なども表記した。また、生業遺跡と供給地(系譜や流通)との関係から、生業品が多量に出土する③の祭祀遺跡なども表記した。

その結果、全体には、日本海側の本県の当該期の生業遺跡として、①・②・③・④は数遺跡が散見され、⑦が山形盆地で一定量認められた。なお、本県では、生業(製作)痕跡はなくても、集落遺跡で使用された砥石や紡錘車は普遍的に出土し、全てが搬入品とは捉えづらく、一定程度の在地生業(製作)の推測は可能であろう。

一方、太平洋側の福島県、宮城県では、上記の生業遺跡の他に、宮城県北部や岩手県などで⑤・⑥が加わり、両県の主要な平野や盆地で一定量確認される。

また、一部遺跡では、複数の生業が行われ、二つ以上の生業が行われる遺跡もある。これらは、特に南から北に、一般に古墳文化が定着し古墳時代後半には国造制が施行された福島県の中通り地方の阿武隈川流域(郡山市周辺遺跡群、須賀川市周辺遺跡群、白河市周辺遺跡群など)、古墳時代を通じて安定した集落が営まれた北限域の宮城県仙台平野(仙台市周辺遺跡群、多賀城市周辺遺跡群)、続縄文文化圏であるが本州最北^{つのづか}の角塚古墳がある岩手県中部域(中半入遺跡)などに多く看取られる。

これら遺跡群は、岩手県を除き、日本海側の本県と同じく前期から大型首長墓が分布する範囲と重なる。また、古墳に伴う埴輪や須恵器の在地生産の導入もあり、前述した前方後円墳などの畿内的な墓制を取り入れる中で、これら古墳文化に関わる生業も受容され、一部前述した在地的な東北的生業も独自に発展したのだろう。

一方、東北地方南部は、古墳に明瞭に副葬される生業遺物は②や④の一部のみ(会津大塚山古墳[前期])と少なく、本県大之越古墳の鍛冶具は特異な事例といえる。

4 生業遺跡での生業遺構のあり方

本項では、本県で出土例の少ない生業遺跡を理解するために、本県の資料と共に同じ東北地方で太平洋側の面的調査を行った生業遺跡を比較検討する。また、今回は特に時期幅があり鍛冶炉を伴い遺構でも明瞭に生産行為が分かる①を中心に、同一遺跡で他の生業との関連も補完し、主な生業遺跡や生業建物を以下に検討する。

4-1 遺跡範囲（集落）内での生業建物の立地

生業建物の立地は、限定的な調査区から不明瞭な部分が多いが、遺跡範囲に組み込み、生業建物の立地傾向などを推測したい。大きく平地か丘陵に分類し、更に丘陵は山頂側を上部、山麓側を下部で分けた。以下分類する。

- I 類：遺跡範囲で生業建物が集落中央部にあるもの。
- II 類：遺跡範囲で生業建物が集落中央部と縁辺部の中間にあるもの。
- III 類：遺跡範囲で生業建物が集落縁辺部にあるもの。

4-2 生業建物の規模 生業建物の平面規模を分類する。建物が複数ある場合は A・B で表した。

- A 類：一辺 8 m 以上の大型建物。
- B 類：一辺 5 m 前後の中型建物。
- C 類：3 m 前後の小型建物。

4-3 生業建物の分布 集落内での同一生業建物の分布のあり方を検討する。

- 1 類：集落内に生業建物が 1 棟のみで分布。
- 2 類：集落内に複数の同一生業建物が散発的に分布。
- 3 類：集落内に複数の同一生業建物が近接・集中分布。

4-4 遺跡内での複数生業 同一遺跡の中で複数の生業活動から、①以外の他の生業のあり方を分類する。立地などは分類（上記 4-1～3 の分類）に準拠する。

- a 類：①建物と他生業建物が 1 棟のみで分布。
- b 類：①建物と他生業建物が散発して分布。
- c 類：①建物と他生業建物が近接・集中して分布。

5 東北地方南部を主とした各県の様相

各県の生業の様相を前述分類などで特徴を概述する。

・山形県の様相（日本海側南部：図 1・図 4～9）

内陸地方を主に生業遺跡が確認される（図 4～9）。内容は、①が 3 遺跡（中野目 II [中期前半]・南原 [中期後半]・嶋遺跡 [後期]）、②が 2 遺跡（高嶺南 [前期後半]・玉作 1 遺跡 [中期前半]）、③が 1 遺跡（八反遺跡 [中期後半]）である（以下、遺跡は省略）。

生業時期の主体は、①は古墳時代中期、②は同前～中期、③は同中期に多く認められる。②・③は完形品も概ね同様の時期に集落や祭祀遺跡で普遍的に出土する。

これは、詳細は別稿に譲るが、面的調査の行われた主な内陸地方の遺跡数（主体時期）での生業遺跡の出現率では①は約 10%（3 遺跡／30 遺跡 [中期]）、②は約 3%

（1 遺跡／38 遺跡 [前期]）、③は約 3%（1 遺跡／30 遺跡 [中期]）で、各生業とも遺跡数全体の 1 割弱ほどと少ない。なお、本県は河川跡などの出土分布から傾向を把握する場合もある。

山形一 1 遺跡範囲内での生業建物の立地 ①の 3 遺跡は、全体に平地Ⅲ類（南原 [2 基 1 組の鍛冶炉] は南縁、嶋 [羽口] は北・南縁、中野目 II [生業建物] は東縁）に立地する傾向がある（図 6・7 概要図）。

山形一 2 生業建物の規模 ①は、南原で屋外炉、嶋で羽口のみ出土で不明である。中野目 II では生業建物（ST50）は集落内の大型 ST100 などと比較し、B～C 類の部類に入り小規模な生業建物と考えられる。

山形一 3 生業建物の分布 ①は、前述した通り鍛冶炉や羽口のみ出土で不明な点が多いが、中野目 II（中期前半）は、調査区がトレンチ状で判然としないが、周辺遺構の希薄さから集中した鍛冶は少ない可能性がある（1 類?）、南原（中期後半）では鍛冶炉（2 基 1 組）の 3 組が直径約 12 m の範囲に集中（3 類）。嶋（後期）では集落の居住域を挟み南北で羽口や多量の炭化物が出土し、羽口周囲の土器では同時期に複数の鍛冶も窺える（2 類）。なお、南原・嶋とも鉄滓の分析は行っていない。

山形一 4 遺跡内での複数生業 南原で鍛冶炉と共に、④の未成品が出土する生業建物がある。生業建物は①と同じ集落南縁に立地、建物規模は集落内の中型建物、生業建物の分布は単発である。①屋外の鍛冶炉群（Ⅲ 3 c 類）と近接して分布する（Ⅲ B 1 c 類）。

山形一 5 県内での他の生業 ②は高嶺南が平地Ⅲ B・C 3 類（未成品出土の生業建物が東南縁）で、集落を区切る河川（SG252・SG114）に隣接する（図 8 概要図）。また、庄内地方の玉作 1 でも生業建物は不明だが、未成品は集落南縁の河川（SG71）の一部に集中廃棄され、周囲に生業活動の可能性があり平地Ⅲ類とした。なお、素材は流紋岩を主体とし、後述の北陸的土器と共に、北陸的な系譜や影響が窺える。

③は、八反の正式な報告を待つが、遺跡範囲の中で古墳時代の集落内で平地 I 類の中心域に立地し、①の生業建物などの立地とやや様相が異なる。生業建物の規模・分布は C 1 類と考えられ、後述陸奥側と大差ない。

なお、素材は、詳細は報告書を待つが、肉眼観察で粘板岩や片岩が多い。近接する八幡山遺跡も同様で、これ

らは、一般に太平洋側に多く分布する。

山形ー6 集落の性格と生業 集落の性格は、拠点集落で琥珀や黒曜石、豊富な石製品・祭祀具・木製品が出土し、東北南部では希少な打込柱建物や倉庫群がある嶋遺跡が推定される。南原・中野目Ⅱは、鍛冶以外に特殊な遺物が不明瞭で、現況は一般集落と思われる(図2)。

但し、①は、後述する東北地方南部でも少ない中期前半に一般集落的な中野目Ⅱに出現する。次の中期後半には前述した山形市大之越古墳から東日本で希少な鉄挺や鉄鉋が副葬されるに至る。更に後期には拠点集落の嶋でも鍛冶が複数力所で行われ一定の進展が推測される。

他の生業では、②の高嶺南(前期後半)が近接した板橋1遺跡から一般に北陸地方の首長墓などから出土する石釧があり、甕類や木製農具でも北陸の様相を強く持つ拠点集落の可能性はある。但し、生業建物はⅢB・C3類と①の生業遺跡と同様で、集落の主体でない。

③の八反(中期後半)は、八幡山遺跡に近く、詳細は報文を待ちたいが、一般に古墳出土の子持須恵器片などから拠点集落と推測され、集落中央に単発で生業建物が立地するなど①・②とはやや様相が異なる。

・福島県の様相(太平洋側南部：図1・図10～17)

福島県は、東西に3地域に分かれ、西から会津地方、中通り地方(阿武隈川流域)、浜通り地方である。特に中通り地方は調査で多くの当該期の生業が確認される。内容は、①15遺跡、②は5遺跡、③11遺跡である(図2)。

これは、特に面的調査の行われた中通り地方の集落遺跡数(青山2015から筆者抽出)から主な生業遺跡の出現率では、①は約30%(8遺跡/26遺跡[中期])、②は約10%(2遺跡/20遺跡[前期])、③は約23%(6遺跡/26遺跡[中期])で、①と③の生業が活発に見える。なお、会津地方は①2遺跡、②2遺跡で、①と②が同等にある。浜通り地方は①5遺跡、②1遺跡、③4遺跡である。①と③が多い。他に①は、前期の折返A遺跡以外に、終末期(7世紀後半)の東北地方南部の初期製鉄(製錬。両側排滓)が当地で始まったため多い。

生業時期は、概ね本県と同様で、古い順に前期に②、中期に①・③が隆盛し、完成品は集落遺跡や祭祀遺跡でも同様の時期に多く出土する。但し①では前述した折返Aが前期から活動痕跡(砂鉄系鉄素材の製錬鍛冶滓)があり、一部後期に停滞する。終末期後半には浜通り地方

での在地製鉄(製錬)が開始され、新たな律令的萌芽の清水台など官衙遺跡に付属する鉄(鍛冶)が出現する。

以下に調査事例の多い中通り地方の、①を主に、地域毎(県北、県中央、県南地域)に様相を概述し、会津・浜通り地方、他の生業も補完し生業の概要を記す。

福島ー1 遺跡範囲内での生業建物の立地 中通り地方の①の立地は、県北・県南で、本県と同じ平地にある遺跡が多いが、県中央は阿武隈川沿いの平地(清水内・清水台)と丘陵(永作・南山田・正直A)にある。

平地では、県北でⅠ類に立地するもの(辰巳城[中期前半])、Ⅱ類に立地(高木[終末期])がある。県中央ではⅡ類に立地(清水内[中期前半。方形区画施設の外側]・清水台[終末期。瓦集中域など官衙中枢の外側])がある。県南ではⅡ類に立地(三森[報文Ⅰ期は中期前半。方形区画施設の外側。報文Ⅱ期はⅢ類か])である。

上記平地では、全体にⅠ類の辰巳城(A1類建物)以外はⅡB・C2類建物が多く、少なくとも方形区画や官衙中枢からはやや外れた場所に鍛冶建物が立地する。

一方、丘陵ではⅢ類(A・C3類建物)ながら丘陵上部の標高の高いところに立地するもの(永作・南山田[中期後半])と、Ⅱ類(A3類建物)とⅢ類(C3類建物)で丘陵下部に立地するもの(正直A[中期後半])がある。

上記丘陵では、全体にⅡ類は生業建物がA～B3類の場合、Ⅲ類はB～C2類の場合が多い傾向が窺える。

福島ー2 生業建物の規模 遺跡内で同一の生業建物が複数の場合にA類建物が認められる(正直A)。また、複数のB～C類建物に、少数のA類建物(三森SI5・10・14・20、清水内SI8、永作SI19、正直A SI33、中平SI2)のセットが多い傾向がある。

B類は、大半の遺跡(三森、清水内、永作、南山田、正直Aなど)にあり、最も多い。これは一般の竪穴住居と同等規模で、鍛冶に関わる人々の出自も推測される。

C類は少なく、確認される遺跡も限られる(正直A1号鍛冶遺構、清水内8区SI13、中平SI4)。これは、少なくとも鍛冶作業の一部には小規模な建物でも対応可能で、住居に不向きで、鍛冶専用の建物かもしれない。

各類とも鉄滓分析では、磁鉄鉱系鉄素材の製錬・鍛錬鍛冶滓が確認され、建物規模や集落の性格で明瞭な工程の差異は認められない。

福島ー3 生業建物の分布 Ⅰ類の単発分布は、辰巳城

(ⅠA類建物)、清水台(ⅡA類建物)がある。2類の散発的分布は高木(ⅡB・C建物群)があり、約50m離れ鍛冶炉群が2ヶ所の集中ブロックに分かれる。3類の近接・集中分布は、正直A(ⅡA・C類建物群)、永作(Ⅲ上A・B類建物群)、清水内(ⅡbA・B類建物群)、中平(ⅢA・C類建物群)で最も多い。

これらからは、1類には、時期幅はあるが、集落中央(Ⅰ類)付近に大型(A類)建物で構成される傾向がある。2類は、時期差の課題はあるが、集落内の竪穴住居群が集中するブロック毎に中・小(B・C類)建物が少数付属し、その間隔は50m以上である。3類は、遺跡数が最も多く、建物数や重複が多い大規模な遺跡が多い。建物規模は大・中(A・B類)建物若しくは大・小(A・C類)建物の鍛冶が隣接する 경우가多く、鍛冶の作業内容や対応する工人の差異などが推測される。

福島ー4 遺跡内での複数生業 一遺跡内での①以外の他生業との関連では、③が正直A(②玉類含む)・永作・清水内・三森の4遺跡が確認され、①の生業遺跡数の約半数にのぼる。但し未成品が覆土出土で生業建物が明瞭ではないものもある。

③の生業建物は、正直A・永作ともに①と同じ立地の傾向がある。なお、南山田に近接する北山田(③生業)も丘陵上部Ⅲ類で、永作・南山田と同じ集落を見下ろす古墳周辺に立地する。一方、③の生業建物規模・同分布は正直Aが①と同じA・C類建物を近接して配置に対し、永作・南山田はC類建物に限られ、①とは異なる尾根(丘陵上部)に配置される相違がある。これは、①と③の生業の集落内での志向や工人集団の差異によるものか。

なお、③の素材は全体に滑石が多く、正直A・永作・北山田の谷田川周辺(佐久間2015)、三森の建鉾山周辺に産出地があり、隆盛した要因の一つであろう。

福島ー5 県内での他の生業 福島県で上記以外の生業建物と関連するものでは、②・④などが認められる。

②は、図示しないが前期の会津地方の宮ノ北遺跡、浜通り地方の愛谷遺跡がある。宮ノ北はⅠA・C3類建物、愛谷はⅢB1類建物である。①と生業の種類は異なるが、生業建物が大・中型で複数ある場合は、集落の縁辺(Ⅲ類)に立地しないことなどは、①に通じる様相が窺える。

なお、②の素材は全体に本県と類似する緑色凝灰岩が多く、会津地方など前代からの北陸的要素が強い。

④は、本稿が一遺跡で①と共に行われる他生業を主にしたため、詳細は別稿に譲るが、図1の集成に留める。

但し、①の生業建物がある高木では、④の明瞭な生業建物は判然としないが、完成品の石製・土製紡錘車の出土地域(古代竪穴住居の覆土出土含む)は、集落中間部Ⅱ類(方形区画の外側)で、①と同じ地域に集中する。また、この集中域からは、西日本に多い所謂算盤形の紡錘車も出土した。これらは、少なくとも中期前半には紡錘車を使用した布生産が集落内の一地区(8区)で集中的に組織化していた可能性がある(図13)。なお、対して同遺跡の②や③の完成品は、集落全体から出土する(図13下)。鉄生産の①(鍛冶。リサイクル含む)や布生産と、装身具の②や祭祀用の③では、性格が異なるが、各々生業の集落内での使用・廃棄の差異が看取れる。

福島ー6 集落の性格と生業 集落の性格は、方形区画などを有する豪族居館が、前期の折返A・中期の清水内・三森の3遺跡である。前期の折返Aでは判然としないが、中期以降の2遺跡では①と共に、前述した複数の生業を行っており、地域での先進的技術や祭祀の生業を所謂豪族居館層が担ったと推察される。

拠点集落は、集落規模や出土遺物の豊富さなどから正直A・永作(同一丘陵の南山田含む)・高木(Ⅳ期は居館か)の3遺跡とした。但し正直A・永作は前述したように組織的な①や③の生業建物を近接させ、方形区画施設はないが、内容的に居館と同様の生業活動を行っている。

一般集落では、辰巳城・中平など2遺跡がある。両者とも建物数が少なく、複数の大中の①生業建物を近接して有する点は同じだが、遺跡の中央部と縁辺部の立地はやや異なる。一般集落においては、鉄(鍛冶)の内容や工人など担い手の相違によるものかもしれない。

・宮城県の様相(太平洋側中央部：図18～21)

宮城県は、大きく県北(大崎平野)・県中央(仙台平野)・県南(阿武隈川河口)の3地域に分かれる。また、県中央は前期からの大形古墳がある仙台市周辺(県中央南)と、その北にある明確な大型古墳が不明瞭な多賀城市周辺(県中央北)に分けられる(柳澤2010)。

内容は、①3遺跡、②2遺跡、③3遺跡、④2遺跡、⑤3遺跡、⑥2遺跡である。

この遺跡数は少ないが生業種類の豊富な特徴は、同一遺跡で複数の多用な生業を行う遺跡が多いことから生じ

る。東北地方でも多様性があつた地域と捉えられる。

主要な生業遺跡の主体的時期の出現率をみれば、全体に約 7～11% (2～3 遺跡/26 遺跡 [中期。青山 2019 から筆者抽出。以下同じ]) とやや低い。但し、本稿では集成に留めるが、⑦木製品の未成品や多量出土の遺跡はやや多く、約 14% (7 遺跡/51 遺跡 [前期。青山 2019]) で、本県同様の様相も窺える。

生業時期は、概ね本県と同様だが、前期はやや不明瞭で (⑦は除く)、中期に①・③・⑦が隆盛し、完成品も集落遺跡や祭祀遺跡でも多く認められる。また当該期に一部遺跡で②・⑤・⑥などの生業開始が認められる。

その後、後期前半に生業は判然としないが、後期～終末期には前述した福島県と類似する、初期の律令的な官衙遺跡で著名な郡山遺跡に付属する①長舎な鍛冶工房が認められる。また、ほぼ同時期に山王遺跡では、①・⑤・⑥なども断続的に製作されるが、出土地が後期～終末期の集落を囲む河川や溝跡で生業建物は判然としない。

以下に、福島県と同じく、地域毎 (県北部・県中央部 [北半・南半]・県南部) に概要を記す。

宮城ー 1 遺跡範囲内での生業建物の立地 中期の県中央北半の山王、県中央南半の南小泉がある。①の立地は、前者が平地の中期集落内 (柳澤 2010・図 18) の I 類で、不整形な方形区画施設内 (村田 2018) に複数建物がまとまって立地する。後者も平地で生業建物は未検出だが、鉄滓が前期遠見塚古墳に近い I 類の地区 (16 次調査区) から出土し周辺に①生業の存在が窺える。

次期は、山王の中期集落から北側に移転した後期～終末期の集落だが、鉄滓や羽口が集落を囲む河川や溝跡 (SD5083 など) の出土で、生業立地は判然としない。

また、ほぼ同時期 (7 世紀後半) には、県中央南半の平地の郡山 I 期官衙の中核区の外側 (但し外郭より内側) に隣接 (86 次調査 SI294)・近接 (236 次 SI2323) し、II 類に鍛冶工房が配置される (図 21)。

全体に宮城県では、①は福島県と異なり、遺跡の中央部 I 類に立地することが多い。これは、福島県では中期の大半の①が集落中間部 (II 類) や、主体的な方形区画施設の外側に建物が立地したのに対し、やや様相が異なる。但し、終末期の郡山 I 期官衙での立地は、ほぼ同時期の前述した福島県清水台と同じ中核区 (清水台の瓦集中域) の外側 (但し外郭施設より内側) で、中間部 II 類

で、①生産の類似した官主導の強い関与が窺われる。

宮城ー 2 生業建物の規模 生業建物規模は、宮城県では関連遺物が土坑 (南小泉) や河川跡出土などが多く明確なものは限られる。①では、中期の山王が I 類の区画施設に近い部分 (縁辺か) に、ほぼ同規模の B 類建物 3～4 棟 (SI5266・1501・1503) と C 類建物 1 棟 (SI5914) が集中して確認される。これらは、鉄滓や金床石、砥石などが出土し、一部未報告で詳細不明だが、SI5266 の分析では磁鉄鉱系鉄素材の椀形滓・精錬鍛冶滓 (大型粒状滓)・鍛錬鍛冶滓 (鍛造剥片) の工程が行われる。また、同時期の南小泉 SK12 でも磁鉄石系鉄素材の鍛錬鍛冶滓があり、建物不明ながら山王と同様な鍛冶が推測される。

一方時期が降った山王の終末期 (SD5083 溝跡) では、建物不明ながら、砂鉄系鉄素材の製錬・鍛錬鍛冶滓が出土する。また、ほぼ同時期の郡山 I 期官衙では、幅約 4 m で主軸が同一の I 類の長舎建物 2 棟 (長舎 A 類) ある。共通した規格性から鍛冶専用の建物とされる。

宮城ー 3 生業建物の分布 生業建物の分布は、3 類として中期の山王がある。同時期の南小泉、後期の山王は前述の通り建物が判然とせず不明である。

終末期の郡山 I 期官衙は、2 棟の建物の立地は、約 150 m 離れており 2 類的だが、全く同じ鍛冶工程かは不明だが、建物幅や主軸が同じで、製作遺物 (中核域に近い SI294 からは小札・鉄鏃出土) の違いではないか。

宮城ー 4 遺跡内での複数生業 遺跡内での①以外の他生業では、中期の山王・南小泉で、③が共通して行われる。他に山王は、河川跡や溝跡の資料などから②・⑤・⑥・⑦の製作・生業を行った痕跡がある。但し③は、中期の鍛冶建物が集中する八幡地区ではなく、約 500 m 西方の西町浦地区で確認され、B・C 類の建物が主軸を同じくして近接して立地する。

なお、当該期の⑤は、宮城県の黒曜石産地の湯の倉がある県北 (大崎平野) の名生館遺跡 (図 21) でも生産される。平地の官衙域から外れた集落から未成品を含む B 類の建物 (SI1215) から出土し、集落の一般的な建物と同等規模で、大きな格差は認められない。

他に⑥も時期が降る後期～終末期に、山王と同じ県北の石巻市五松山洞窟で完成品と共に未成品が出土する。他に完形品は、福島県中通りの郡山市大善寺古墳や棚倉町胡麻沢古墳、いわき市金冠塚古墳など古墳から出土す

る。各々形態も地域性があるが、東北地方南部や関東地方海岸部でのまとまった出土（藤沢 2002）からは、東北地方に主体的な生業の一つとも推測される。

南小泉では、鉄滓が出土した 16 次調査区で、③の生業建物が確認される。他に未成品も 16 次調査区に隣接する 21・22・25・26 次調査区で主に出土する。これらは遠見塚古墳（前期）に近接し、集落中央Ⅰ類で（図 20）、直径約 150 m の範囲で③の集中的な生産も窺える。生業①と③がほぼ同地域での活動が考えられ、現況の山王とやや様相を異にする。なお、③の素材は山王で滑石と共に粘板岩系が多く本県と類似する。宮城県は粘板岩（スレート）産地として牡鹿地方が著名で、定型的な形態が多いことも含め、福島県とはやや様相が異なる。

宮城一 5 県内での他の生業 宮城県の他の生業は、大半が山王や南小泉と隣接・近接した遺跡（新田・高崎・市川遺跡など）が多く、時期毎に山王や南小泉周辺などを集落が移転した結果とされ（村田 2018）、関連が窺える。内容は、各遺跡とも山王や南小泉の生業の一部（②・③・⑦）の 1 種類で現況では限定的な生業に留まる。

なお、②の素材は本県でも出土する琥珀製がある。

宮城一 6 集落の性格と生業 集落の性格では、山王の中期が居館（村田 2018）・後期～終末期が拠点、南小泉が拠点、終末期の郡山が官衙とした。

福島県とはやや異なる不整形な方形区画や柵列を有する中期の山王では、①と共に前述した多様な複数の生業を行っている。中央的な生業（①・②・③）の他に、東北地方以外では数少ない北方的な生業（⑤・⑥）も認められ、北と南の生業の交流などが窺える。なお、山王遺跡では一部後期に入り、②・③などの生業は判然としないが、⑤・⑥は残存し北方との交流は継続される。

一方、県中央南の南小泉は、福島県の複数生業を行う遺跡と類似した①・③が集中的にあり、山王と様相がやや異なる。官衙の郡山は、福島県の清水台遺跡と同じく、官衙の中枢域から①は外れており、同様の様相が窺える。

・岩手県の様相（太平洋側北部：図 22）

岩手県では、県中央部（北上川中流域）で、本州北限の前方後円墳である角塚古墳（中期）に近接する同時期の中半入遺跡のみが認められる。内容は、1 遺跡ながら①・②・③・⑤の複数の生業が認められ多様性が窺える。

主要な生業遺跡の主体時期の出現率は約 16%（1 遺

跡／6 遺跡〔高木 2019 から筆者抽出〕）とやや低いが、当地域は続縄文文化圏（江北・北大式）で、東北南部の土師器文化圏とは異なる。生業時期は中期で前方後円墳が最も北進した時期と重なり終末期まで断続的に続く。

岩手一 1 遺跡範囲内での生業建物の立地 中半入の①生業建物（SI105）の立地は、平地で中期集落の集中域（図 22 上）で、方形区画施設の外側Ⅱ類に近接するが、建物主軸も区画施設とほぼ同じで相関が窺える。

岩手一 2 生業建物の規模 建物規模は B 類である。方形区画内外には A～C 類規模の建物があり、中間的な建物規模と推測される。鉄滓や金床石が出土し、分析では中期は一般に鉍石系素材に対し、砂鉄系鉄素材の精錬鍛冶滓・鍛錬鍛冶滓（鍛造剥片）が出土する。

岩手一 3 生業建物の分布 1 棟しか確認されず、トレンチ調査で不明だが、現況は単発の 1 類になる。

岩手一 4 遺跡内での複数生業 遺跡内での①以外の生業との関係では②・③・⑤が確認される。特に⑤は①の SI105 建物内で、①の作業場と場所を変えて行う。

②・③は、方形区画施設の外側で、SI105 と同じ東側に近接する平地Ⅲ B 1 類の SI201 が確認され、③未成品や剥片、②琥珀製（岩手県久慈産）の未成品が出土し、更に北方との交流も窺える。なお、③の素材は在地の粘板岩系が多く、宮城県山王とやや類似する様相を示す。

岩手一 5 県内での他の生業 近年、同地域で中半入と同様遺跡も確認されてきたが生業は判然としない。

岩手一 6 集落の性格と生業 中半入の性格は小規模だが東北南部に類似する方形区画施設を有する居館とした。区画施設に近接する SI105（Ⅱ B 1 類）で①・⑤、やや離れた SI201（Ⅲ B 1 類）で②・③が一建物で複数生業を行う東北南部では類例のない生業活動である。

6 まとめ

最後に、前項までの古墳時代の各県での鉄（鍛冶）を主とした多様な生業と変遷を整理し、まとめにかきたい。

山形県の様相 山形県は生業遺跡の出現率が低く、遺構・遺物の遺存状況が不明瞭で判然としない事例が多い。

しかし、山形盆地では、中期前半には東北地方でも数少ない鉄（鍛冶）が開始され、中期後半には東日本では希少な大之越古墳の鍛冶具も出土する。前述した村上氏は「装飾大刀と鍛冶具の供伴は地域において鉄生産を統

括・管理した被葬者」(村上 2007) も想定される。後期には拠点集落の嶋遺跡でも複数で鍛冶が行われる。

これからは、①鉄(鍛冶)の生業活動の事例は現況少なく、集落縁辺などに限られるが、山形盆地においては概ね生業活動は陸奥側と同じ進展が推測される。なお、米沢盆地でも南原遺跡(中期後半)の集中的な鍛冶が行われた可能性もあり、山形盆地の進展状況と符合する。

他に②玉類や③石製模造品も拠点集落などから生業活動が確認されるが、未だ遺跡は限定的で、②玉類の高橋南遺跡(前期後半)の生業建物も集落縁辺で、①鉄(鍛冶)の生業遺跡と同様な様相を示す。これからは、本県では拠点集落を主に生業活動が行われるが、遺跡毎に 1 種類程度の生業で対応できていたのではないかと。

一方、③石製模造品の八反遺跡(中期後半)は、石製模造品の日本海側北限の八幡山遺跡が近く、集落中央に生業建物単体で立地し、①・②とはやや様相が異なる。**福島県の様相** 福島県では、生業遺跡の出現率が本県と比較し高く、特に中通り地方で顕著である。①鉄(鍛冶)は集中的に活動を行う遺跡が地域毎(県北・県中・県南)に複数ある。本県大之越古墳のような鉄(鍛冶)副葬の古墳は不明だが、各地域を代表する居館や拠点集落において①鉄(鍛冶)や③石製模造品の製作、紡錘車の使用による布生産などの生業が発達したと考えられる。

その系譜は、石製模造品の類似などから佐久間氏が指摘する関東地方(佐久間 2015)や算盤形紡錘車など西日本の影響(高松 2002)も考えられる。これらは、福島県に多い当該期の畿内的な埴輪や須恵器(不明瞭な部分あり)の在地生産や受容とも関連するのであろう。

宮城県の様相 宮城県では、生業遺跡の出現率が本県と同様にやや低いが、中期以降の居館や拠点集落において複数の生業を集中的に行う遺跡がある。特に有力古墳が少ない県中央部北半(多賀城周辺)の山王遺跡では、①鉄(鍛冶)、②玉類、③石製模造品の東日本的な生業と、東北的な⑤骨鏃・⑥黒曜石製石器を含め多様な生業を行い、後期以降も⑤・⑥が残存する。

一方、遠見塚古墳など前代の有力古墳が存在する県中央部南半(仙台平野)の南小泉遺跡は前述①・②を集中的に行う状況が看取れる。その後終末期に①は、同地域の郡山官衙遺跡に引継がれ、福島県清水台遺跡と同様な建物形態や立地を示し官衙付属のものとして出現する。

岩手県の様相 岩手県では、続縄文文化圏の中で、土師器が出土する東北南部的な遺跡がそもそも少なく、生業遺跡の出現率が本県と同様にやや低い。但し中期の中半入遺跡は豪族居館的だが、一建物で複数の生業を行う状況があり、これは東北南部の建物毎に 1 種類の生業を行うあり方とはやや様相を異にする。なお生業建物は方形区画施設の外で規模も一般建物と大差なく、東北南部で多い同様の傾向が窺える。これは中半入遺跡と近接し、埴輪も有する太平洋側北限の角塚古墳(前方後円墳)のあり方からも、中央の文化を積極的に受け入れ、東北南部的な①～③(②は北方の久慈産琥珀)の生業に、在地独自の⑤の生業を加えた多様な生業の姿が推測される。

東北地方南部の様相 上記のように本県を含め東北地方南部や岩手県では、古墳時代を通じ、鉄(鍛冶)を主とした多様な生業活動が行われた。時期的には前期に玉類、中期から鉄(鍛冶)・石製模造品・紡錘車・骨鏃・黒曜石製石器の生業が盛隆し、ほぼ同じく進行する。

但し、各県や地域毎に生業の様相からは、類似する部分と、少しずつ変容する部分がある様相も看取られた。

本県は、全体に生業遺跡の少なさは宮城県や岩手県に類似するが、特定の遺跡への偏りや一遺跡で多様な生業を行う点は異なり、本県独自の受容の仕方も考えられる。

特に本県山形盆地では、従来から当該期に特異な遺跡や遺物が出土することが知られる。その要因は加藤稔氏が最上川流域の古墳造営の背景として指摘した「ヤマトにとっての北のフロンティア出羽・陸奥にあっては、農民層に対する首長層の権威表現に加え、より北に住む「まつろわぬ」エミシへの示威も兼ねた」(加藤 1990)と同じく、遺構や遺物にもそれが強く表出したためと考えた(植松 2004)。前述した山形市大之越古墳や数少ない生業遺跡にも同様の性格があり、本県では太平洋側とやや異なる生業のあり方が培われたのかもしれない。

最後に、本稿を作成するにあたり、辻秀人氏、吉田秀享氏、能登谷宣康氏、佐久間正明氏、柳澤和明氏、古川一明氏、村田晃一氏、千葉孝弥氏、阿部明彦氏、吉田満氏、青山博樹氏、草野潤平氏、天本昌希氏には多大なるご指導を頂いた。記して深謝する。

引用・参考文献

青山博樹 2005 「会津における弥生時代後期～古墳時代前期の土器編年」『新潟県における高地性集落の解体と古墳の出現』新潟県考古学会

- 青山博樹 2010 「古墳時代前期の土器編年―仙台平野とその周辺―」『北社―辻秀人先生還暦記念論集―』 辻秀人先生還暦記念論集刊行会
- 青山博樹 2015 「阿武隈川流域の古墳時代の集落」『阿武隈川流域における古墳時代首長層の動向把握のための基礎的研究』 福島大学考古学研究室
- 青山博樹 2019 「古墳時代の地域社会―仙台平野とその周辺―」『古墳分布北縁地域の実態と交流』資料集 福島大学
- 阿部明彦 1987 『三軒屋物見台遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第107集 山形県教育委員会
- 荒井格 1992 「東北地方の木製農耕具」『東北文化論のための先史学歴史学論集』加藤稔先生還暦記念会
- 飯村均 2005 「律令国家の対蝦夷政策 相馬の製鉄遺跡群」『遺跡を学ぶ021』新泉社
- 植松暁彦 2004 「長表遺跡の古墳時代前期の棟持柱建物跡について」『研究紀要』第2号 (財)山形県埋蔵文化財センター
- 植松暁彦 2005 「山形県の弥生後期～古墳時代前期」『新潟県における高地性集落の解体と古墳の出現』新潟県考古学会
- 植松暁彦 2008 「出羽国創建期(7～8世紀)の山形県の土師器の様相」『出羽国ができるころ―出羽建国期における南出羽の考古学―』山形県立うきたむ風土記の丘 考古資料館
- 植松暁彦 2009 「出羽国南部内陸部の7～8世紀の須恵器生産の特質」『7～8世紀の須恵器生産を巡る諸問題』東北古代土器研究会発表要旨集
- 氏家和典 1957 「東北土師器の型式分類とその編年」『歴史』14 東北歴史学会
- 潮見浩 1988 『図解 技術の考古学』有斐閣
- 内山敏行 1998 「関東地方の古墳時代の竪穴鍛冶遺構」『新郭古墳群・新郭遺跡・下り古墳』栃木県埋蔵文化財調査報告第214集 財団法人栃木県文化振興事業団
- 大賀克彦 2002 「弥生・古墳時代の玉」『考古資料大観9』小学館
- 大賀克彦 2002 「凡例 古墳時代の時期区分」『小羽山古墳群(清水町埋蔵文化財発掘調査報告書V)』
- 大類誠 2018 「八幡山遺跡の石製模造品」調査説明会資料
- 柏倉亮吉 1953 『山形縣の古墳』山形県文化財調査報告書第4輯 山形縣文化財保護協會
- 加藤稔 1990 「最上川流域の古墳時代史」『山形県立博物館研究報告』11 山形県立博物館
- 加藤稔 1994 「出羽」『前方後円墳集成』山川出版社
- 金田拓也 2015 「東北地方における石製模造品の展開」『阿武隈川流域における古墳時代首長層の動向把握のための基礎的研究』福島大学考古学研究室
- 川崎利夫編 2004 『出羽の古墳時代』高志書院
- 菊地芳朗 2010 『古墳時代史の展開と東北社会』大阪大学出版会
- 菊地芳朗 2013 「骨角製品」『古墳時代の考古学4―副葬品の型式と編年―』同成社
- 菊地芳朗 2015 「古墳時代における阿武隈川流域の意義と特質」『阿武隈川流域における古墳時代首長層の動向把握のための基礎的研究』福島大学
- 草野潤平 2013 「古墳周縁域の交流について―太平洋側の動向と山形県域の特質―」『年報 平成24年度』公益財団法人山形県埋蔵文化財センター
- 佐久間正明 2000 「福島県における五世紀代の土器編年」『法政考古学』第26集
- 佐久間正明 2005 「滑石製品製作遺跡の概要―宮城県・山形県・福島県―」『古墳時代の滑石製品―その生産と流通―』第54回埋蔵文化財研究集会
- 佐久間正明 2015 「石製模造品からみた阿武隈川流域における首長層の動向」『阿武隈川流域における古墳時代首長層の動向把握のための基礎的研究』福島大学考古学研究室
- 鈴木功 1966 「福島県内における鍛冶遺構について」『論集しるのぶ考古』福島考古学会
- 関敦司他 2002 「福島県内の石製紡錘車」『阿武隈川右岸地区遺跡調査報告XIV』本宮町文化財調査報告37集
- 高木晃 2019 「北上川中流域における古墳時代中期社会の動向」『古墳分布北縁地域の実態と交流』資料集 福島大学
- 高橋誠明 2014 「古墳築造周縁域の地域社会の動向」『古墳と続縄文文化』東北・関東前方後円墳研究会
- 高松俊雄他 2002 『阿武隈川右岸地区遺跡調査報告』本宮町教育委員会
- 竹田純子 2000 「古墳時代における山形盆地の木製鋏について」『山形考古』7-2 山形考古学会
- 次山淳 1992 「塩釜式土器の変遷とその位置づけ」『究班』埋蔵文化財研究会15周年記念論文集埋蔵文化財研究会
- 辻秀人 1989 「東北古墳時代の画期について(その1)」『福島県立博物館研究紀要3号』福島県立博物館
- 辻秀人 1992 「古墳の変遷と画期」『新版古代の日本』9 東北・北海道編 角川書店
- 辻秀人・藤沢敦・古川一明ほか 1993 「東南北部の古墳出現期の様相」『東日本における古墳出現過程の再検討』日本考古学会新潟大会
- 辻秀人 1994 「東南北部における古墳出現期の土器編年その1 会津盆地」『東北学院大学論集』歴史学・地理学26号 東北学院大学学術研究会
- 辻秀人 1995 「東南北部における古墳出現期の土器編年その2」『東北学院大学論集』歴史学・地理学27号 東北学院大学学術研究会
- 辻秀人編 2007 『古代東北・北海道におけるモノ・ヒト・文化交流の研究』東北学院大学
- 辻秀人 2011 「東南北部」『講座日本の考古学 古墳時代(上)』青木書店
- 能登谷宣康 2006 「陸奥南部における7～8世紀の製鉄炉」『鉄と古代国家』第7回愛媛大学考古学研究室シンポジウム
- 能登谷宣康 2009 「福島県内における鉄器生産初期の様相」『たたら研究』第49号
- 古川一明・白鳥良一 1991 「東北」『古墳時代の研究6 土師器と須恵器』雄山閣
- 平尾良・山岸良二 2000 『古墳・貝塚・鉄器を探る 文化財を探る科学の眼4』国土社
- 深澤敦仁 2017 「群馬県の石製模造品」『小さな石のものがたり』かみつけの里博物館
- 藤沢敦 1992 「引田式再考」『歴史』79 東北史学会
- 藤沢敦・辻秀人 1994 「陸奥」『前方後円墳集成』山川出版社
- 藤沢敦 2002 「古墳時代の骨角器」『考古資料大観9』小学館
- 藤沢敦 2018 「弥生時代後期から古墳時代の北海道・東北地方における考古学的文化の分布」『国立歴史民俗博物館研究報告第211集』国立歴史民俗博物館
- 村上恭通 1999 『倭人と鉄の考古学』青木書店
- 村上恭通 2007 『古代国家成立過程と鉄器生産』青木書店
- 村田晃一 2005 「7世紀における陸奥北辺の様相―宮城県域を中心として―」『福島大会資料集』日本考古学協会
- 村田晃一他 2018 『山王遺跡Ⅶ』宮城県文化財調査報告書第246集 宮城県教育委員会
- 柳沼賢治 1999 「福島県における五世紀土器とその前後」『東国土器研究会』第5号
- 柳澤和明 2010 「多賀城市山王・市川橋遺跡における住式―栗田式期集落跡の様相―」『宮城考古学』第12号
- 横須賀倫達 2015 「特異な副葬品から大化前代の阿武隈川流域を考える」『阿武隈川流域における古墳時代首長層の動向把握のための基礎的研究』福島大学考古学研究室
- 吉田秀享 2017 「鉄製梵鐘」『モノと技術の古代史 金属編』吉川弘文館

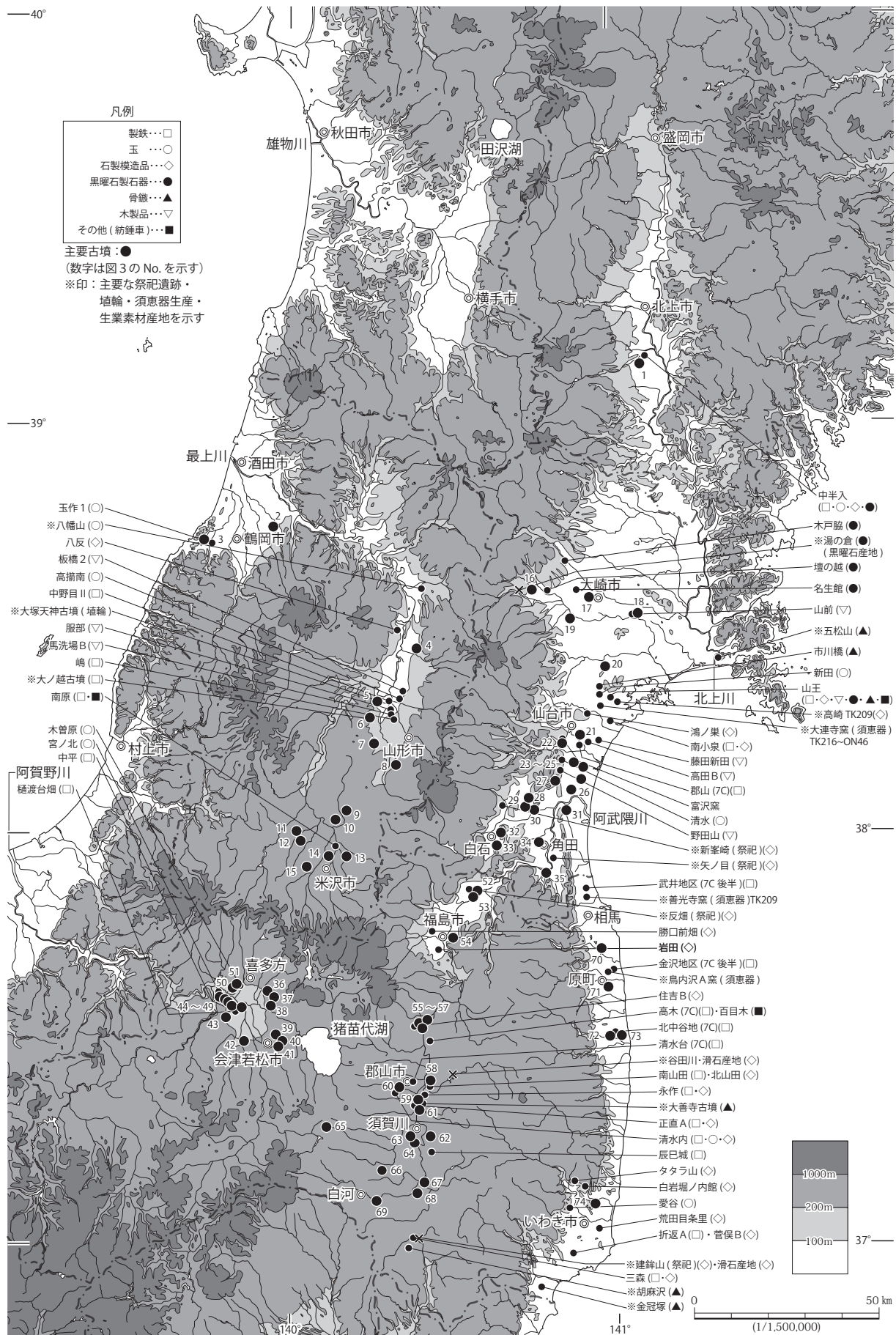


図1 古墳時代の生業遺跡と主要古墳位置図(150万分の1)

図2 古墳時代の東北地方南部の主な生産遺跡

県	市町村	遺跡名	種別	時期	生産物			在地系		東北系		備考	出典 報告書 集番号	刊行 年度
					東日本系 鉄（鍛冶）	玉	石製模造品	紡錘車	木製品・農具等	骨角器・骨鏃	黒曜石器			
岩手県	水沢市	中半入	居館	中期後	105 住 (鉄滓のみ)	201 住 (琥珀未成品)	△ 201 住 (粘版岩)				105 住	鍛冶炉未検出。 石製模造品同一母岩。	岩事 380	2002
山形県	村山市	八反	拠点	中期後			3259 住					石材、粘版岩・蛇紋岩・流紋岩	山セ年報	2012
山形県	天童市	高嶺南	集落	前期後		211 住						石材、流紋岩・泥岩	山セ 132	2004
山形県	天童市	板橋 2	拠点	前期					△河川跡			鍛北陸系。石剣	山セ 125	2004
山形県	天童市	西沼田	集落	中後期					△河川跡			打込建物群	山教 101	1986
山形県	山形市	中野目 II	集落	中期前	101 住							鉄滓・羽口	山セ現説	2018
山形県	山形市	嶋	拠点	後期	T21・26 他							鉄滓・羽口。琥珀切子玉	市教委	2012
山形県	山形市	服部藤次	集落	前中期					△河川跡				山セ 119	2004
山形県	山形市	馬洗場 B	拠点	前中期					△河川跡				山セ 123	2004
山形県	高島町	南原	集落	中期後	71・72・73 炉			27 住				トレンチ。住居外縁辺	山セ 2	1994
山形県	鶴岡市	玉作 1	集落	中期		河川跡等						碧玉主体・鉄石英。完品なし	山セ 170	2009
山形県	山形市	大之越	古墳	中期後	鉄鉗・鉄斧							環頭大刀・鉄剣・直刀・鏃・馬具	山教 18	1979
宮城県	小牛田町	山前	居館	前期				△				黒曜石器	県	1976
宮城県	大崎市	木戸脇	集落	前中期							1 土坑	黒曜石原石・剥片。湯の倉産	市	2008
宮城県	大崎市	名館館	拠点	中期							1215 住	黒曜石剥片。模造品・琥珀玉	市 10	1991
宮城県	宮崎町	壇の越	集落	中期							843 住 F	覆土。黒曜石剥片・チップ	町 13	2003
宮城県	石巻市	五松山	洞窟	中期						○未成品		完品と共に出土	市	1988
宮城県	多賀城市	山王	居館か	中期前 ～後期	5266・5309・ 5914・1501・ 1503 住		3 住・SX230	△土製・機 織（東）・ 糸巻（八）	○河川跡踰 未成品	SX230（中 期前～8C 前）	12・17 次 SI 等	八幡・東町浦地区。模造品未成品 は複数遺構出土。膝柄又鍬。豎櫛 2（八幡）・弓	市 4 5・ 県 161・ 246 他	1997・ 1994・ 2018
宮城県	多賀城市	市川橋	拠点か	後終末						SD5093 (後期)		山王隣接。川・溝から多様な製品。 柳澤（2010）	県	2001
宮城県	多賀城市	新田	集落	前中期		△		△土製	△			山王隣接。ガラス玉・琥珀玉	市史	1984
宮城県	多賀城市	高崎	集落	中期			17 次 1203 住					山王隣接。	市 17 次	2001
宮城県	仙台市	南小泉	拠点	中期中 ～後	12 土坑		16 次 8 住・ 25 次 5 住					未成品は 21 次 12 溝・6 住、22 次 3 溝、25 次 3 溝、26 次 3 遺構 (市 1992・1994・1995)	市 140・ 225	1990・ 1998
宮城県	仙台市	郡山	官衙	終末期	294・2323 住							羽口（86・136 次）。7 C 後	市 429	2005
宮城県	仙台市	中在家南	集落	中期					△			○漆弓	市 255	2001
宮城県	仙台市	高田 B	集落	中期					△				市 242	2000
宮城県	仙台市	藤田新田	集落	中期					△				県 142	1991
宮城県	仙台市	鴻ノ巣	居館	中期			7 次 6・12 住						市 7 次	2004
宮城県	名取市	野田山	集落	中期					△・弓			弓	県	1992
宮城県	名取市	清水	集落	終末期		73 住						7 C	県	1981
福島県	福島市	勝口前畑	集落	中期			1 祭祀					未成品含む	市 100	1997
福島県	福島市	岩田	集落	中期			1 住					未成品は 2 土坑	市	1991
福島県	玉川村	辰巳城	集落	中期後	19 住								県	1991
福島県	本宮市	高木・ 北ノ脇	居館か	終末期	17・30・88・ 100・101 住							一部北ノ脇。7 C。 床面・覆土から羽口・鉄床石	県 202	2002
福島県	本宮市	百目木	集落	後期					30・218 住			町 XIV（2002）に集成。	町 VII・IX	1998
福島県	郡山市	正直 A	拠点か	中期後	33・37 住・1 鍛冶遺構	18 住 (6C 前)	12・18・52a 住・1 祭祀					剥片・未成品は他住居・1 祭祀か らも出土。18 住 (6C 前) 土玉	県 VII・ 34	1984・ 1994
福島県	郡山市	永作	集落	中期後	19・24 住		工房						市東部 7	1987
福島県	郡山市	南山田	集落	中期後	27・69 住							南山田第 1 冊（市 2001）	市 東 部 10	1990
福島県	郡山市	北山田	集落	前中期			16 住						市東部 8	1988
福島県	郡山市	清水内	居館	中期前 ～中	5 区 9・13 住・ 7 区 7 住・8 区 13・15 住・9 区 8・19 住	8 区 1 溝 (未製品)	6 区 23 住 (未製品)	△				紡錘車算盤型。紡錘車 12	市 5・6・7・ 8・9 次	1999
福島県	郡山市	清水台	官衙	7 C 末	1062 住							長倉工房	市 16 次	1993
福島県	大玉村	住吉 B	集落	中期			4・19 住						村 7	1997
福島県	白河市	三森	居館	中期前 ～中	1・5・10・ 14・26 住		5 住 F・ 長方形周溝					石製模造品は未成品。 白河市（旧西白河村）	村	1999
福島県	白河市	舟田	拠点	中期			△					古墳近接	市教委	2000
福島県	新地町	武井	製鉄	7C 後		向田 E 等						両側排滓炉（県 1996）	県	1997
福島県	南相馬市	金沢	製鉄	7C 後		鳥打沢等						両側排滓炉（県 1991～1998）	県	1998
福島県	浪江町	北中谷地	製鉄	7C 後		○						両側排滓炉	町現説	2018
福島県	浪江町	鹿屋敷	製鉄	後期		○						県現説	2019	
福島県	いわき市	折返 A	居館	前期中	3・13 住 F							覆土（磁鉄鉱系・鍛錬鍛冶滓）	市教委	1998
福島県	いわき市	菅俣 B	居館	中期			5 住						市教委	2003
福島県	いわき市	愛谷	集落	前期		3 住						碧玉。鉄製鏃・砥石・台石	市 12	1985
福島県	いわき市	タタラ山	集落	後期前			13・17・23・ 27 住					荒削り形割→穿孔→研磨工程	県	1995・ 1996
福島県	いわき市	堀ノ内館	集落	中期後			3 住					未成品は他遺構	市教委	1999
福島県	いわき市	荒田目	集落	中期			319 土坑他					剥片・未成品が他に 247・3 溝	市教委	2002
福島県	会津坂下	会津坂下	集落	中期後	4 住・屋外炉							5A～C 土器焼成坑・1 祭祀遺構	町	2015
福島県	会津坂下	樋渡台	集落	後期	住居 F							覆土より羽口	町	1990
福島県	会津坂下	宮ノ北	集落	前期中		1 住						緑色凝灰岩。原石・未成品	町	1994
福島県	喜多方市	木曽原	集落	中期		工房か						管玉未成品・剥片	市 2	1990

* 生産物の○は出土遺構有りを表す、△は報文に未成品などの記載、遺物の過多などから筆者が生業遺跡と推測したものを表す。

* 出典は、山セは（公財）山形県埋蔵文化財センター、県は各県教育委員会、県事は（公財）福島県文化振興事業団を表す。市・町・村は各市町村教育委員会を表す。数字は集番号を表す。

図 3 東北地方の主な古墳

No	県	市町村	古墳	時期	集成 (期)	形態	規模 (m)	備考
1	岩手	奥州市	角塚	中期	7～8	前方後円	46	埴輪・円筒Ⅴ
2	山形	鶴岡市	菱津石棺	中期	(7)	?	?	石棺のみ
3	山形	鶴岡市	鷺畑山	前期	3＊	方墳	16	1号円墳 24m
4	山形	東根市	東根大塚	中期	5	前方後方	50	
5	山形	山辺町	大塚天神	前期	4＊	円墳	51	埴輪・円筒Ⅱ
6	山形	山形市	大之越	中期	8	円墳	15	鉄鉗・鉄挺
7	山形	山形市	菅沢 2 号	中期	7	円墳	52	埴輪
8	山形	上山市	土矢倉 2 号	中期	8	前方後円	17	埴輪・円筒Ⅴ
9	山形	南陽市	蒲生田 2 号	前期	4	前方後円	30	3号前方後方
10	山形	南陽市	稲荷森	前期	4	前方後円	96	
11	山形	川西町	下小松 186	前期	2	方墳	23	
12	山形	川西町	天神森	前期	3	前方後方	74	
13	山形	米沢市	宝領塚	前期	3	前方後方	70	
14	山形	米沢市	戸塚山 139	中期	7	前方後円	54	
15	山形	米沢市	成島 1 号	前期	4	前方後円	60	
16	宮城	加美町	大塚森	前期	4＊	円墳	52	
17	宮城	大崎市	青塚	前期	2～4	前方後円	100	
18	宮城	美里町	京銭塚	前期	2～4	前方後方	60	旧小牛田町
19	宮城	色麻町	念南寺	中期	7	前方後円	54	埴輪
20	宮城	大崎市	真山	中期	7・8	前方後円	60	埴輪・円筒Ⅴ
21	宮城	仙台市	遠見塚	前期	4	前方後円	110	
22	宮城	仙台市	裏町 1 塚	中期	7	前方後円	40	埴輪・円筒ⅣⅤ
23	宮城	仙台市	安久東	前期	2＊	前方後円	22	
24	宮城	名取市	観音塚	前期	2	前方後方	63	
25	宮城	名取市	雷神山	前期	4	前方後円	168	埴輪壺
26	宮城	岩沼市	かめ塚	前期	2	前方後円	40	
27	宮城	名取市	名取大塚山	中期	7	前方後円	90	埴輪・円筒Ⅴ
28	宮城	村田町	方領権現	中期	7・8	前方後円	64	埴輪
29	宮城	村田町	愛宕山	前期	4	前方後円	90	埴輪・円筒Ⅴ
30	宮城	村田町	千塚山	前期	2・3	前方後円	85	
31	宮城	亶理町	長井戸	前期	3	前方後方	40	
32	宮城	白石市	瓶ヶ盛	中期	7・8	前方後円	56	埴輪・円筒Ⅴ?
33	宮城	白石市	亀田	中期	7・8	前方後円	42	埴輪・円筒
34	宮城	角田市	吉の内	中・後期	8・9	前方後円	70	
35	宮城	丸森町	台町 20 号	後期	9	前方後円	27	

＊集成編年は加藤 (1994)、藤沢・辻 (1994) を援用。＊印は筆者が判断した。

No	県	市町村	古墳	時期	集成 (期)	形態	規模 (m)	備考
36	福島	喜多方市	舟森山	前期	4	前方後方?	?	形態? 埴輪
37	福島	喜多方市	深沢	中期	5・6	前方後円	42	
38	福島	喜多方市	十九壇 3 号	前期	4	前方後方?	24	
39	福島	会津若松	会津大塚山	前期	3	前方後円	114	
40	福島	会津若松	堂ヶ作山	前期	2	前方後円	84	
41	福島	会津若松	飯盛山	前期	4	前方後円	60	
42	福島	会津若松	田村山	中期	5・6	前方後円	16	
43	福島	会津坂下	杵ヶ森	前期	2	前方後円	46	
44	福島	会津坂下	亀ヶ森	前期	4	前方後円	127	
45	福島	会津坂下	鎮守森	前期	3・4	前方後方?	55	
46	福島	会津坂下	男壇 2 号	前期	1	前方後方?	25	
47	福島	会津坂下	宮東 1 号	前期	1	前方後円	31	
48	福島	会津坂下	森北 1 号	前期	3・4	前方後円	40	
49	福島	会津坂下	雷神山 1 号	前期	3・4	前方後円	47	
50	福島	喜多方市	虚空蔵森	前期	3・4	前方後円	46	
51	福島	喜多方市	灰塚山	中期	5＊	前方後円	60	
52	福島	桑折町	国見八幡塚	中期	7	前方後円	76	埴輪
53	福島	桑折町	綿木塚	終末	10～	前方後円	(42)	10期以降
54	福島	福島市	上条 1 号	後期	10	前方後円	40	
55	福島	大玉村	傾城壇	前期	4	前方後円	42	
56	福島	大玉村	二子塚	後期	9	前方後円	53	
57	福島	本宮市	庚申壇	中期	6	前方後円	45～	埴輪・円筒Ⅲ
58	福島	郡山市	大安場	前期	4＊	前方後方?	83	
59	福島	郡山市	正直 35 号	前期	4＊	前方後方?	37	
60	福島	郡山市	麦塚	後期	9	前方後円	26	埴輪・円筒Ⅴ
61	福島	須賀川市	仲ノ平 6 号	前期	4	前方後方?	24	
62	福島	須賀川市	市の関稲荷	後期	9・10＊	前方後円	39	
63	福島	須賀川市	大仏 15 号	後期	10	前方後円	35	
64	福島	須賀川市	塚畑	後期	9	前方後円	40	埴輪・円筒Ⅴ
65	福島	天栄村	龍ヶ塚	後期	10	前方後円	49	
66	福島	泉崎村	原山 1 号	中期	8	前方後円	21	埴輪・円筒Ⅴ
67	福島	石川町	大壇 1 号	後期	9＊	前方後円	39	
68	福島	白河市	芥内 2 号	終末	10～	前方後円	(17)	
69	福島	白河市	下総塚	後期	10	前方後円	72	埴輪・円筒Ⅴ
70	福島	南相馬市	横手 1 号	後期	9・10＊	前方後円	30	
71	福島	南相馬市	桜井	前期	3・4	前方後方?	75	
72	福島	浪江町	本屋敷 1 号	前期	2	前方後方?	37	
73	福島	浪江町	堂の森	前期	3・4	前方後円	57	
74	福島	いわき市	玉山 1 号	前期	3・4	前方後円	118	

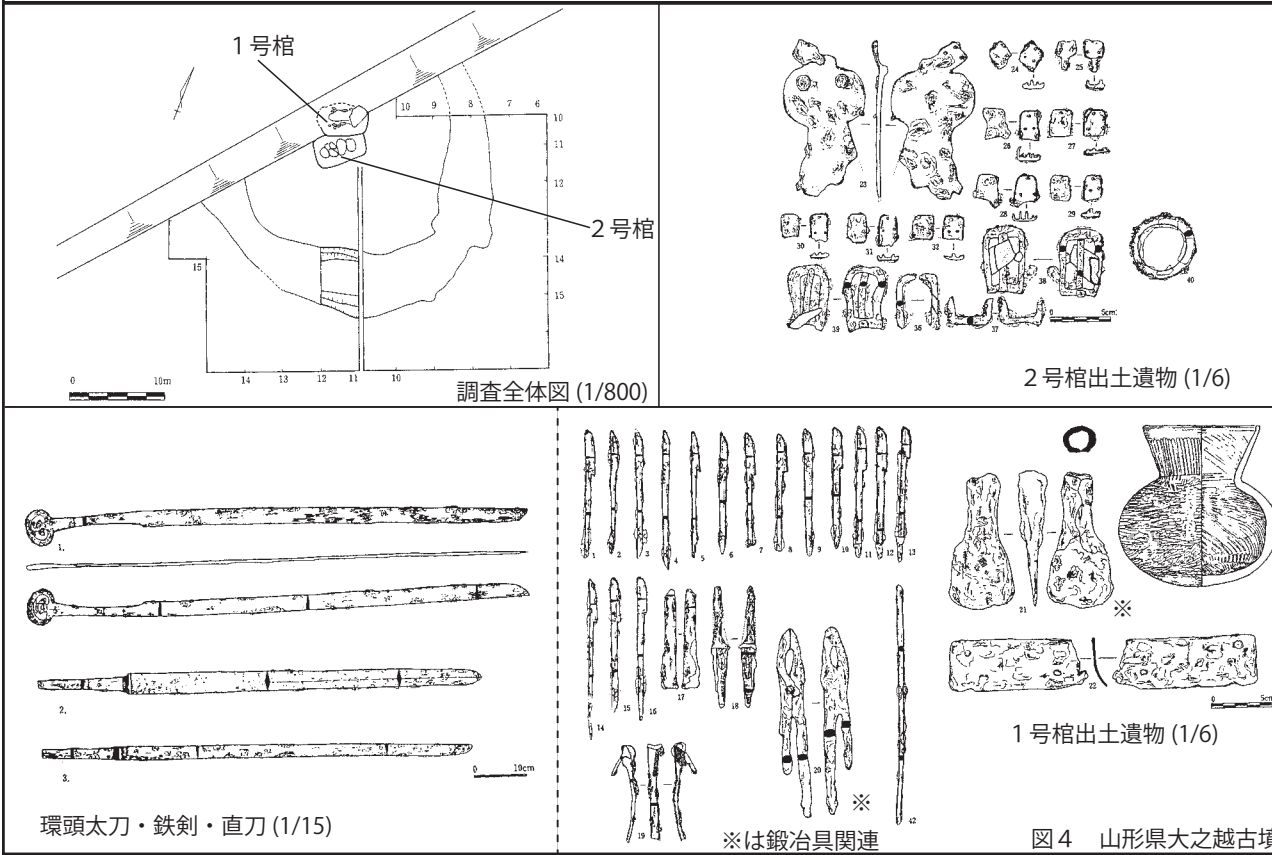
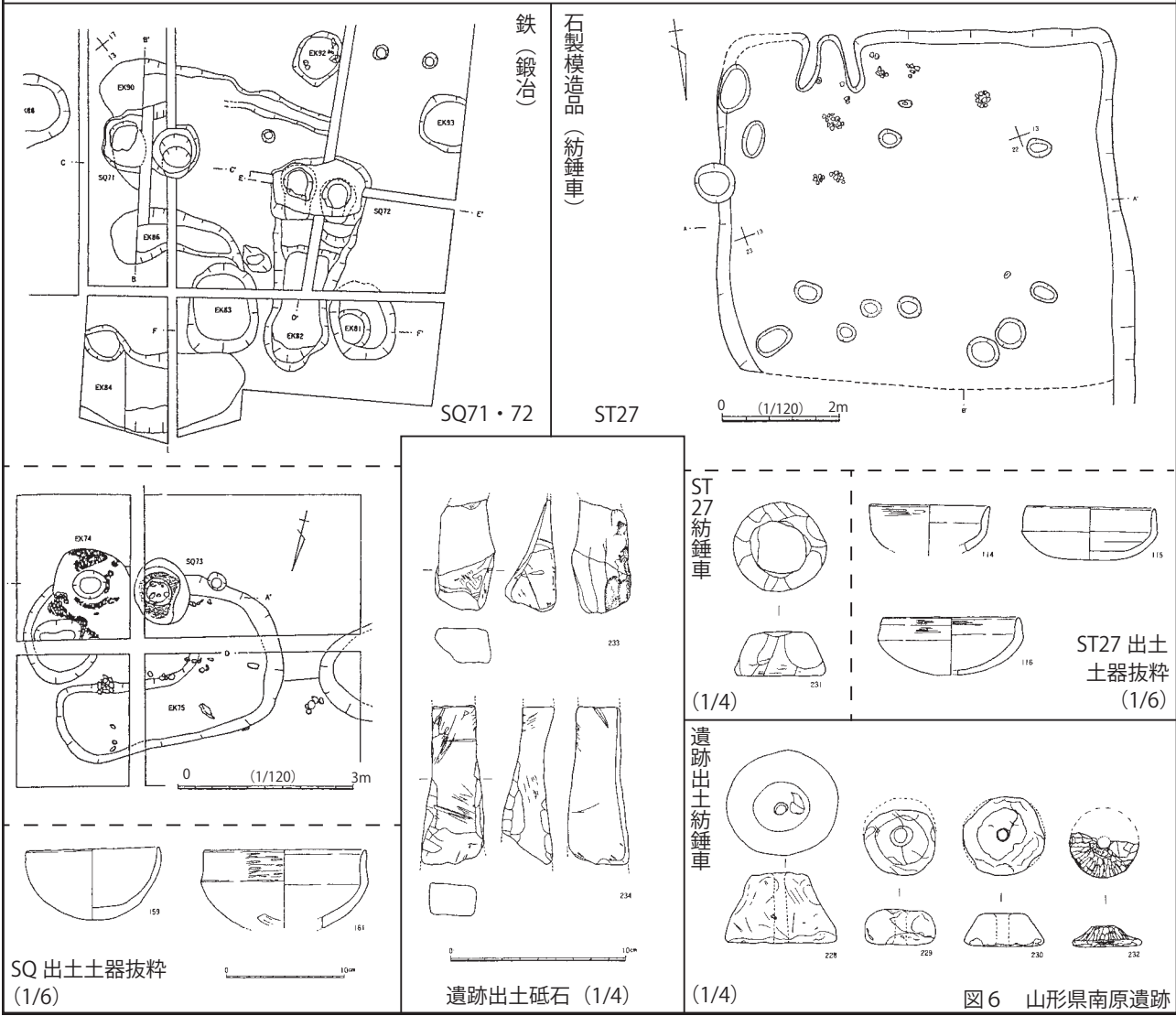
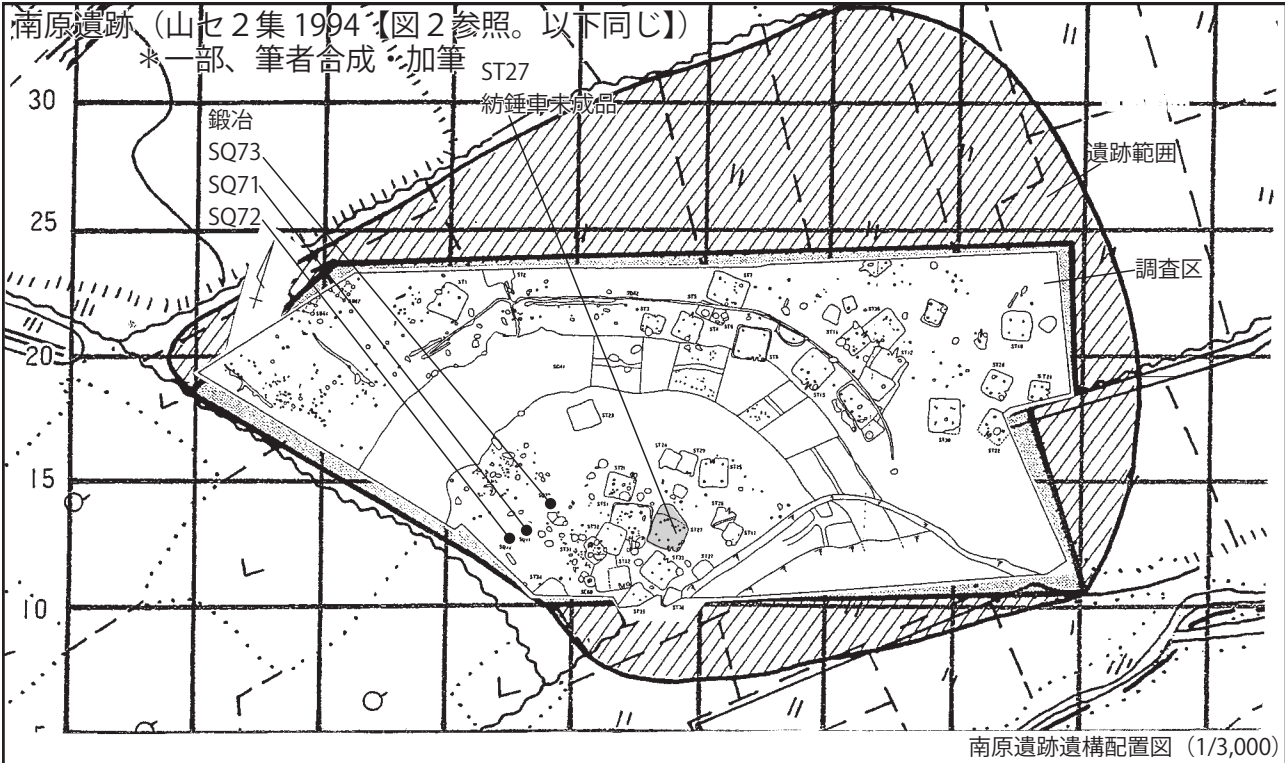
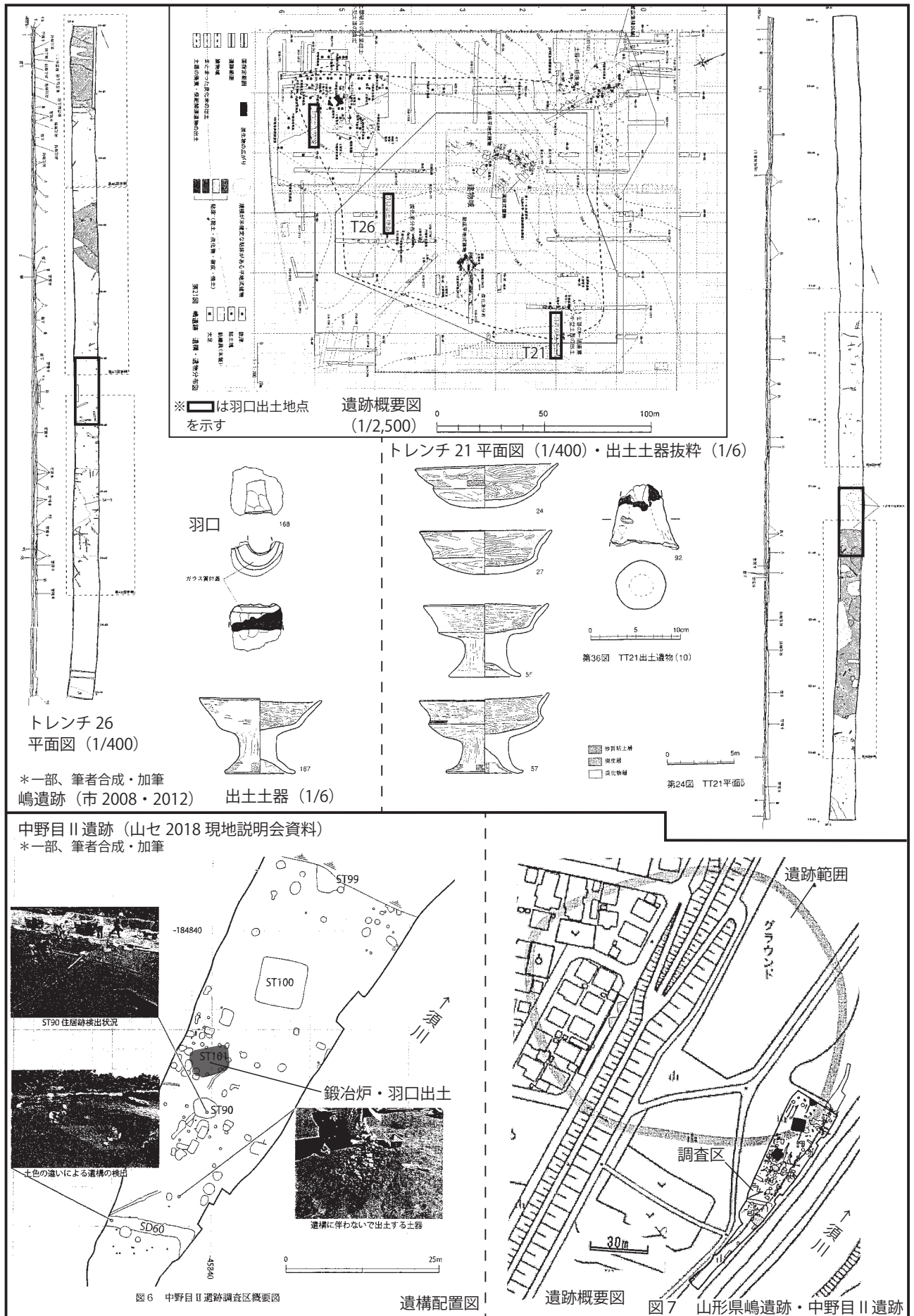


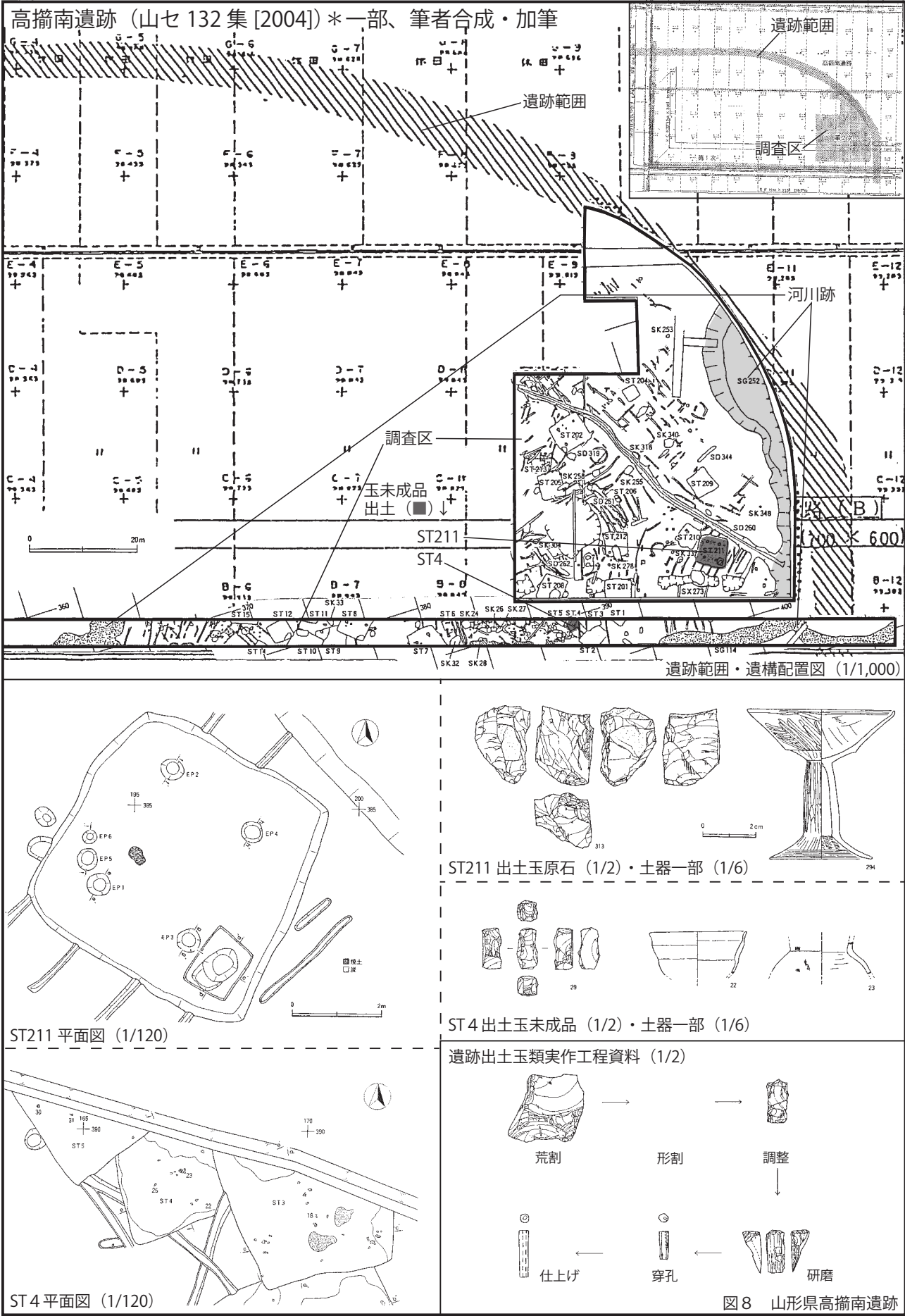
図 5 東北地方南部の生業遺物の概要

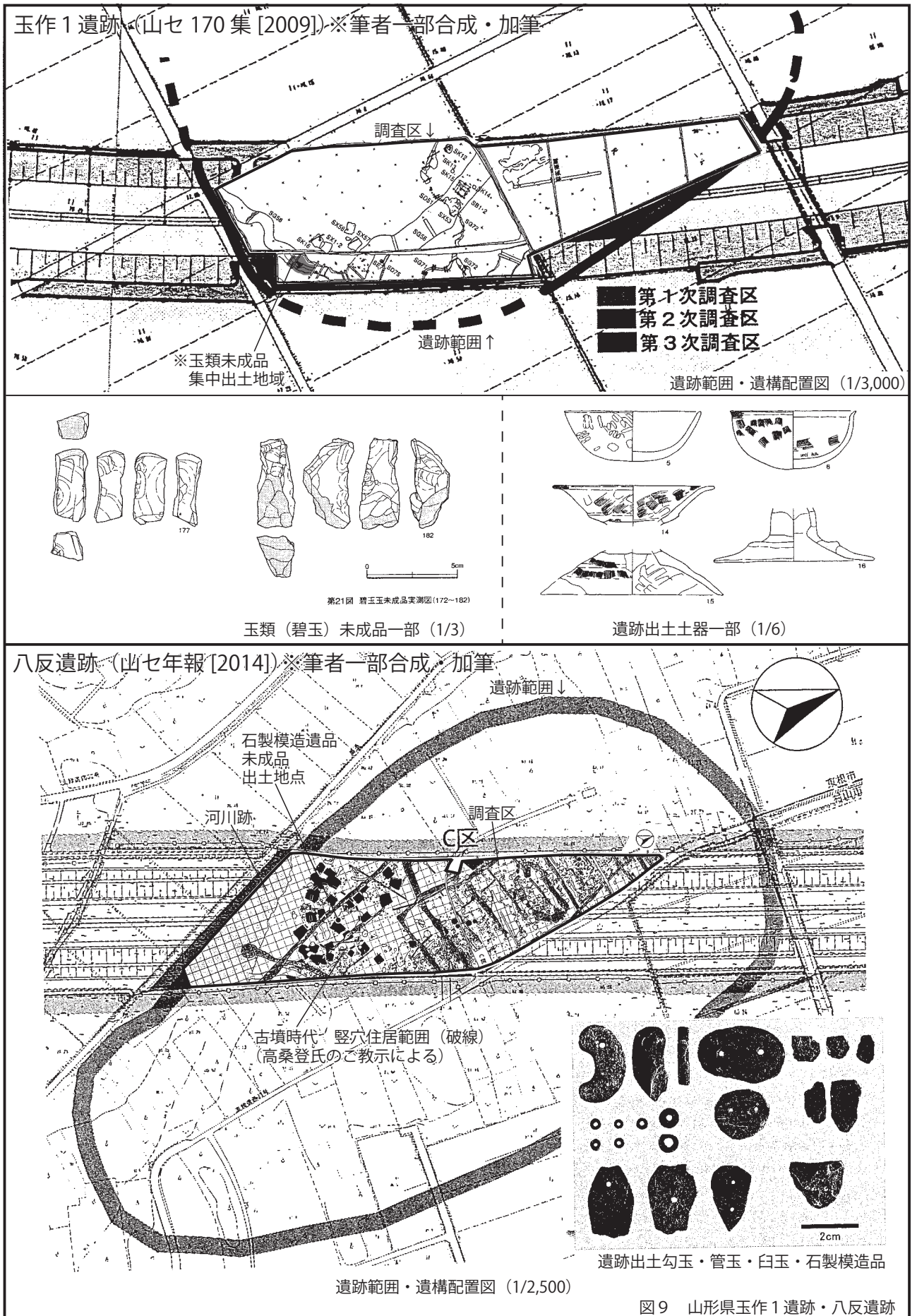
工程項目	製作		使用										廃棄																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	製作跡認定・出土遺物		時期			素材	性格	遺構分布	出土遺構	形態	系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜	生産遺物	出土遺跡		系譜

* 「製作」の「時期」は、◎が生産遺跡が多くある、○が一定量認められる、△が散見される段階を筆者が判断し表した。
* 「製作」の「出土遺跡」は、○が一定量出土する遺跡、△が若干出土する遺跡を筆者が判断し表した。
* 「製作」の「性格」の下線は、主体的に製作痕跡がある遺跡の性格を表す。図 2 参照。









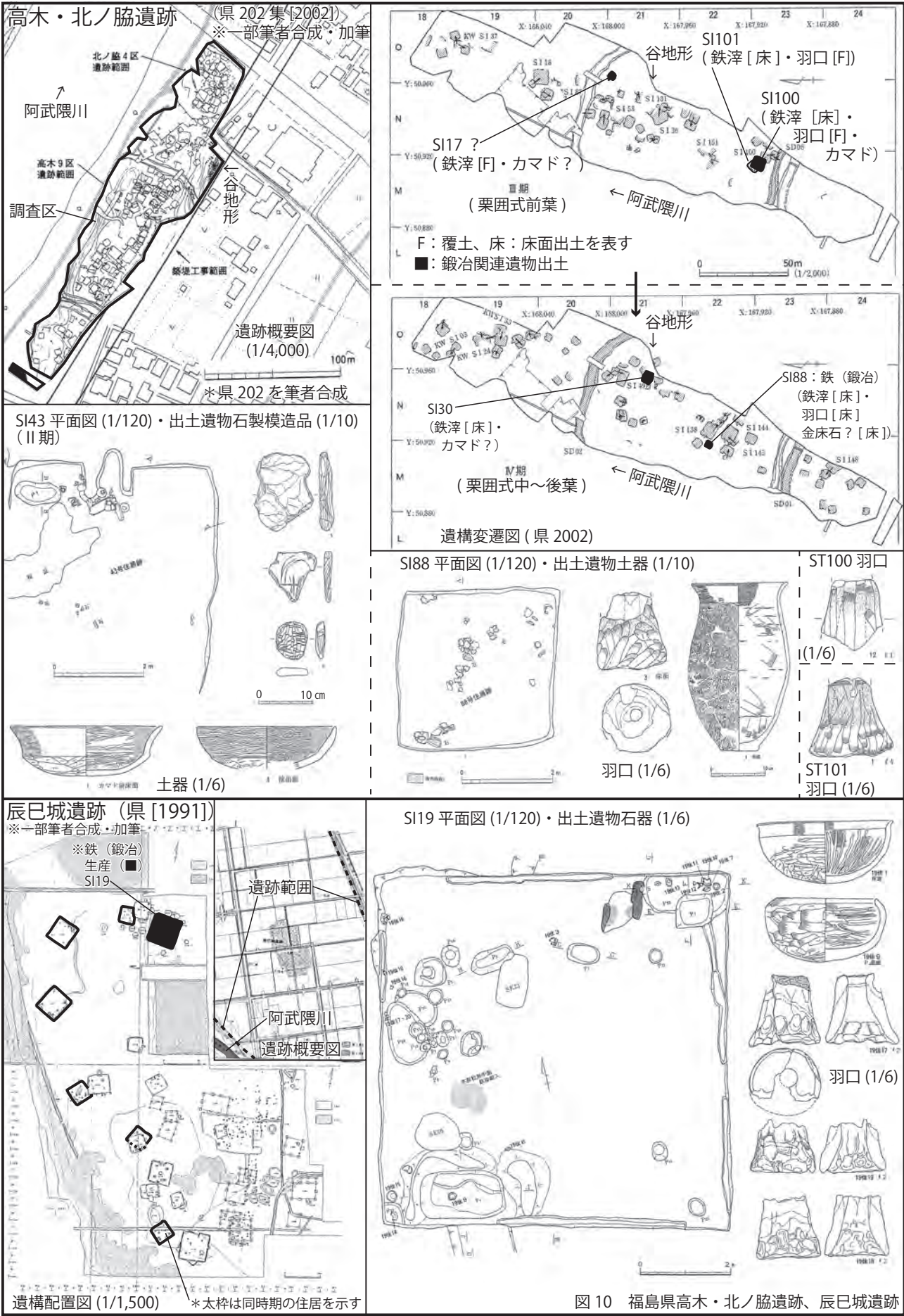


図 10 福島県高木・北ノ脇遺跡、辰巳城遺跡

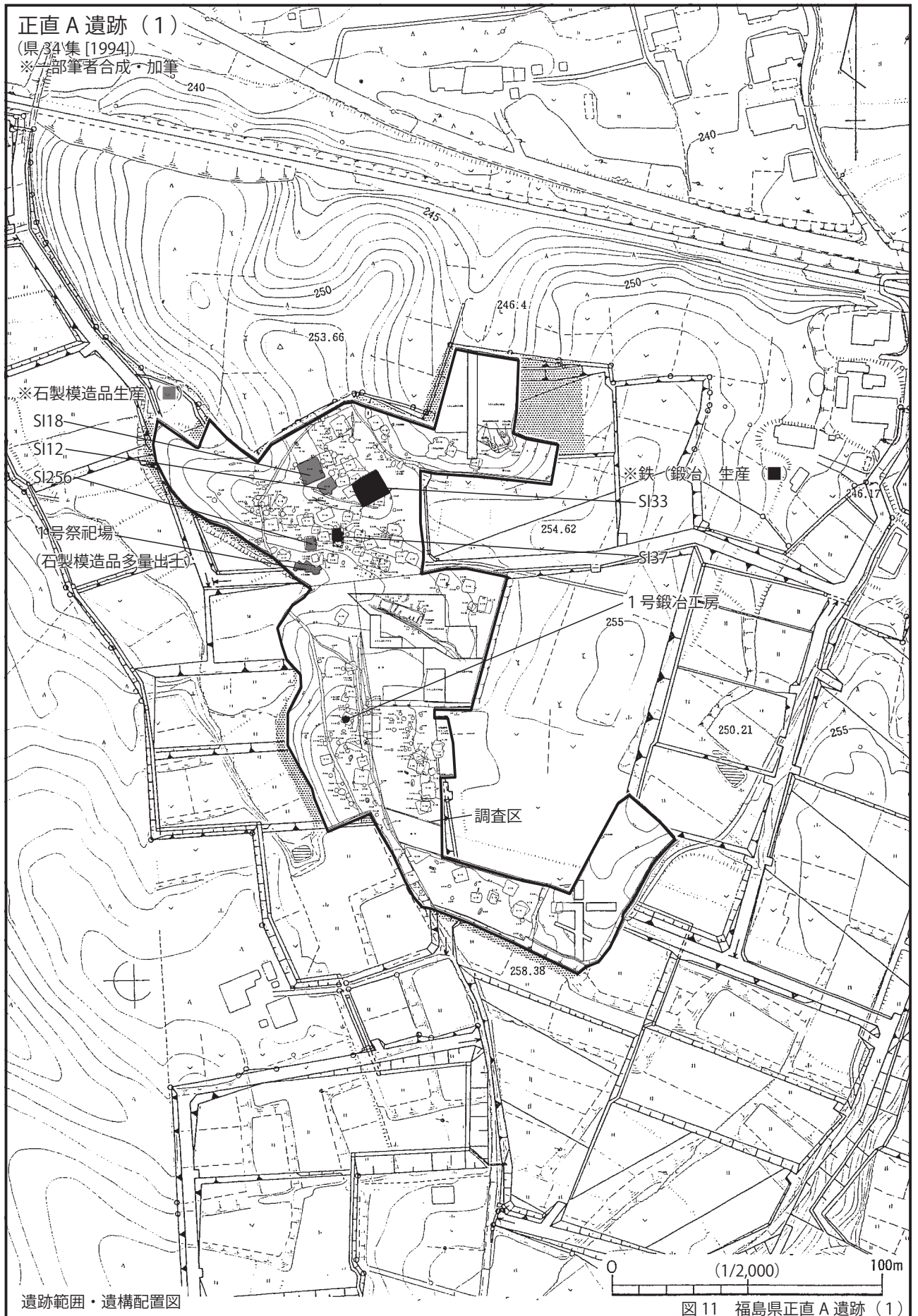
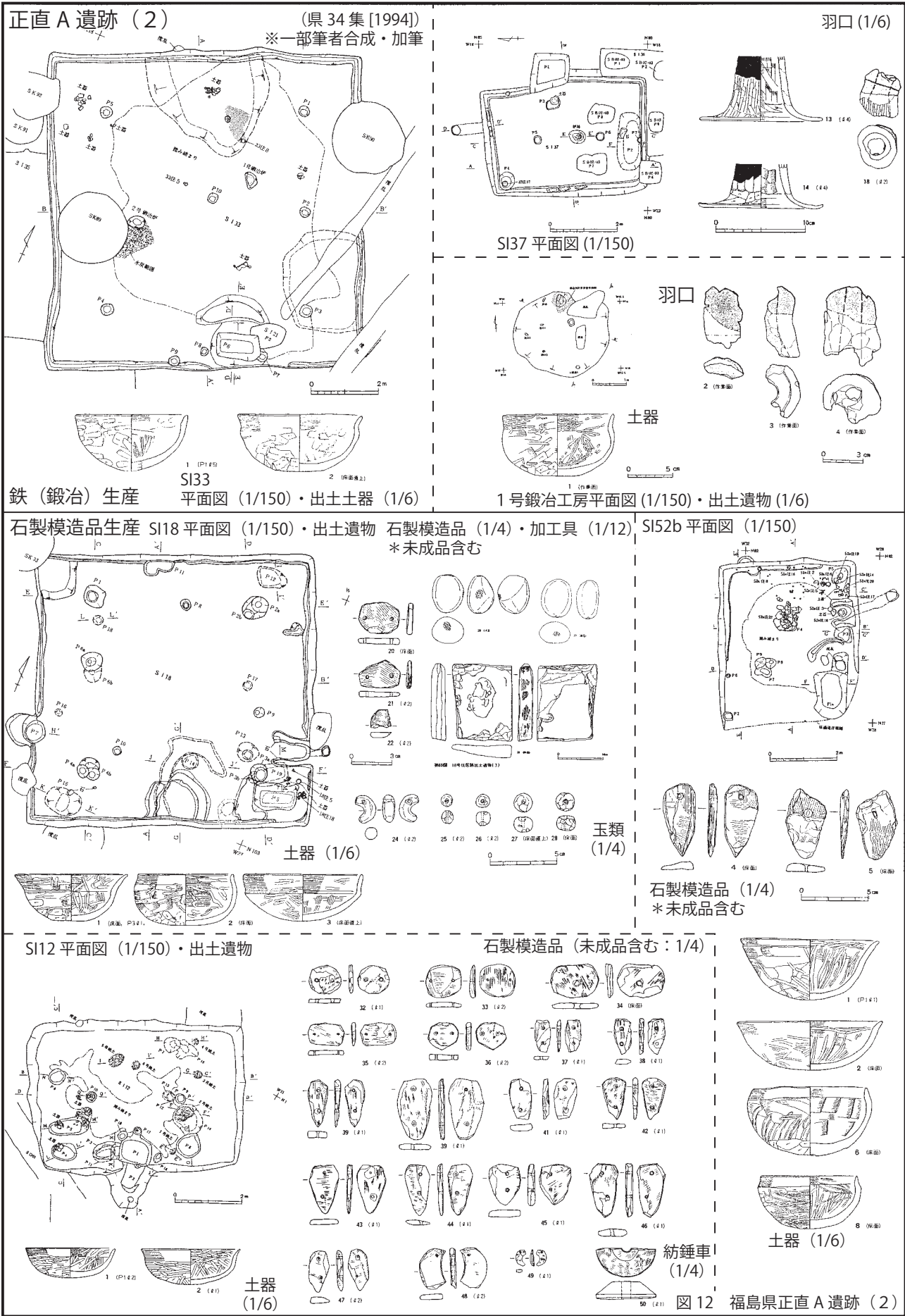
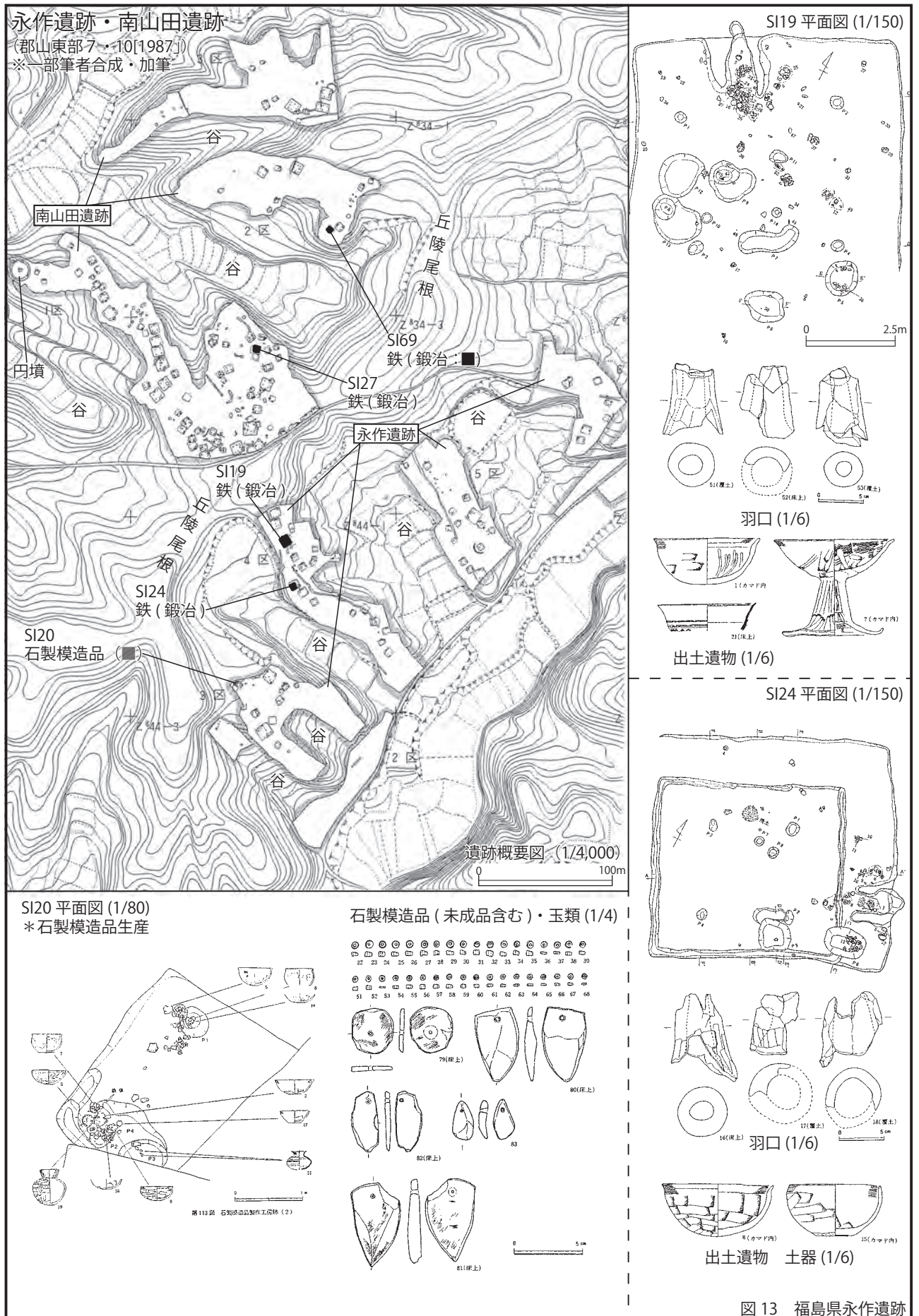


図 11 福島県正直 A 遺跡 (1)







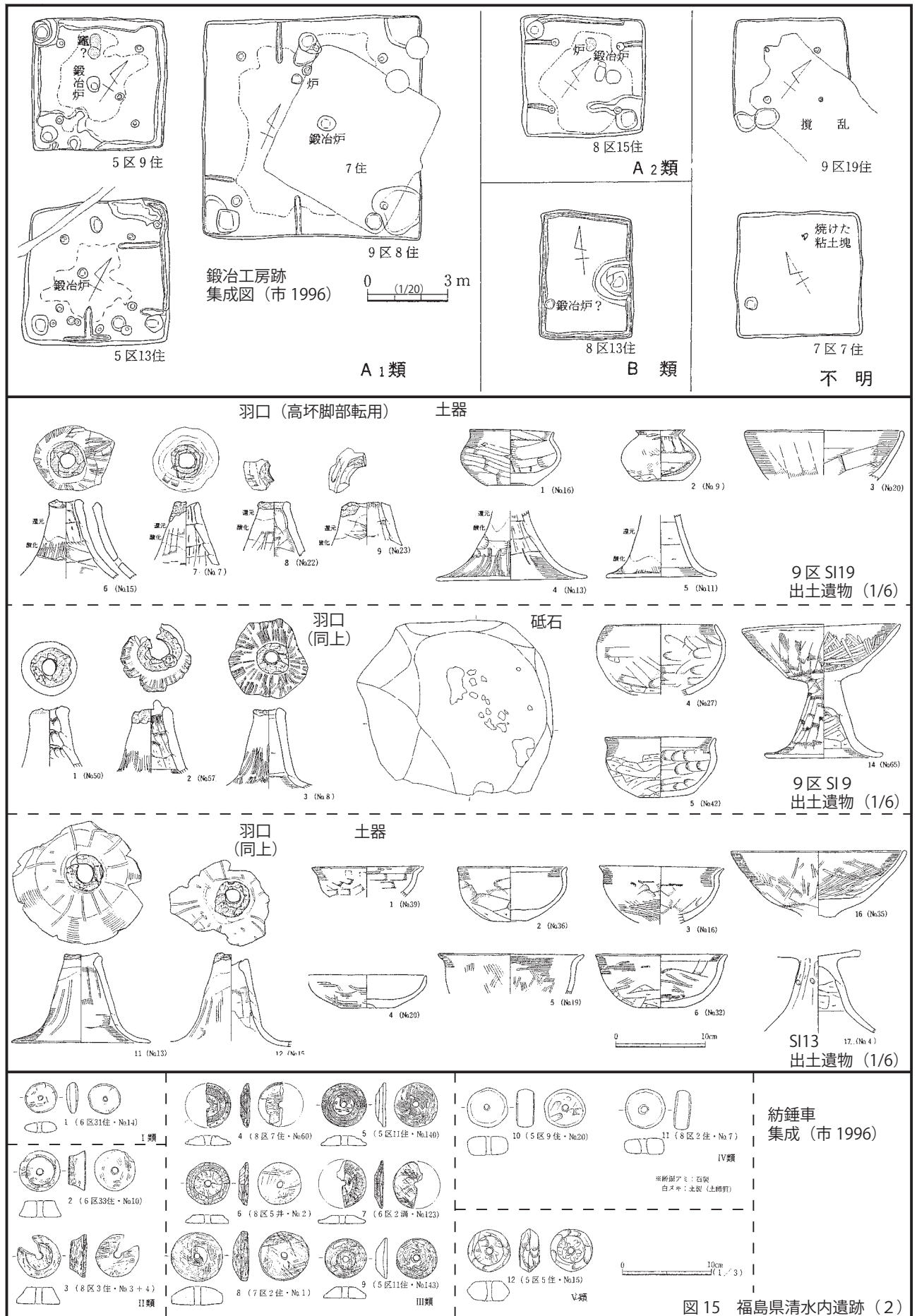


図 15 福島県清水内遺跡 (2)

